

長野県内遺跡出土古人骨リスト

茂原信生・川崎 保・平林 彰

1 はじめに

長野県内は、地形や土壌の関係で人骨の保存状態が悪い遺跡が多く、出土人骨の形態を研究出来るような状態で発掘されるものは限られています。しかし、なかには栃原岩陰遺跡人骨や湯倉洞窟遺跡人骨、あるいは山間部の縄文時代の遺跡としては日本でもっとも多くの人骨を出土した北村遺跡など、日本全体で見ても貴重な資料となるものがあります。弥生時代に大陸から西日本に渡来した人びとが次第に分布を広げて日本列島を北上していった日本列島人の歴史を考えると、長野県で出土する、例えば篠ノ井遺跡群や松原遺跡の人骨など弥生時代から中世の遺跡人骨はその移動の経路や過程を解明する上で非常に重要なものです。

長野県内の古人骨研究は信州大学の医学部に所属されていた鈴木誠先生を中心にして始められたとあっていいでしょう。鈴木先生とともに信州大学で研究されていたのは、森本岩太郎先生や香原志勢先生、西沢寿晃先生、高橋穰先生です。鈴木先生が亡くなられ、森本先生や香原先生が転出されてからは、西沢寿晃先生が県内の出土人骨をほぼ一手に引き受けて研究されてきました。

信州人の歴史を振り返るには、現代人のデータだけでなくどのようにして現在の信州人が形成されてきたか、日本人の歴史の中で信州人がどのような位置にあるのかを考える必要があります。それを研究するための人骨資料は県内各地に分散しており、どこからどのような人骨資料が出土しているのか全体はまだ整理されたことはありません。

そこで、私たちは長野県内から出土した人骨資料についてのリストを作成し、今後の研究に役に立てたいと考えました。長野県埋蔵文化財センターの協力を得て、さらには奈良文化財研究所のデータベースを利用して、現在わかる限りの人骨の出土を伴う遺跡データを集めました。このようなことが可能になったのは、北村遺跡の研究以来、考古学の研究者と人類学の研究者とが人骨の研究の過程でお互いの意見や要望を出し合って、人骨でどういうことを知りたいのか、どういうことがわかるのか、どういうことが明らかにできるか、またその意味は何か、などをお互いに話し合ってきたからだと考えます。これからも両者のコラボレーションをさらに発展させていき、信州人の歴史を明らかにしていきたいと考えています。(茂原)

2 長野県内人骨出土遺跡の概要

長野県内からは「遺跡出土古人骨リスト」を見ていただくとわかるとおり、明らかにヒトと鑑定された骨が出土した遺跡は167か所あります⁽¹⁾。これは全県14,260か所の埋蔵文化財包蔵地(文化庁2017)の1%強です。地区ごとにみると、表1のように木曾・

表1 地区ごとの人骨出土遺跡数

千曲川水系				天竜・木曽川水系			合計
北信	東信	中信	小計	中信	南信	小計	
45	72	26	143	2	22	24	167

表 2 時代ごとの人骨出土遺跡数

	旧石器	縄文							弥生	古墳	古代	中世	近世	不明	合計
		草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	計							
合計	0	0	2	2	7	14	10	35	18	46	30	51	19	10	210
北信	0	0	1	1	1	5	4	12	8	15	13	20	4	0	72
中信	0	0	0	0	2	2	1	5	1	4	7	10	4	1	32
南信	0	0	0	0	2	1	3	6	0	4	4	5	4	1	24
東信	0	0	1	1	2	6	2	12	9	23	6	16	7	8	82

天竜川水系にくらべて千曲川水系の人骨出土遺跡が圧倒的に多いようです。また時代別⁽²⁾には表 2 のとおり、中世、古墳時代の順になります。以下、時代順に人骨出土遺跡のあらましをみていきます⁽³⁾。

(1) 縄文時代

県内最古級は栃原岩陰(No.163)と湯倉洞窟(No.43)の早期人骨です。栃原は落盤事故によるものを除き、側臥で膝を折り曲げたいわゆる下肢屈位 5 個体と散在骨 4 個体分、湯倉は側臥屈位 1 個体と散在骨 2 個体分です⁽⁴⁾。いずれも遺体を埋めた穴は確認されていませんが、側臥屈位の人骨上や横から石が出土している点に注意しておく必要があります。前期の志なの入り(No.162)は洞穴から、丸山(No.45)は土坑から人骨が出土していますが、出土状態は不明です。中期前葉は住居廃絶後の堅穴から出土した屋代高速道地点(No.32)の 2 軒が特徴的で、中期後葉の住居跡床面や周堤からもみつかっています。特異な例として、中期段階の梨久保(No.77)の小堅穴より焼骨が、出土していますが、報告者(会田進)は、「おそらく、小堅穴のそばで焼いた骨を、燃え差しの木材や炭、周囲にころがる石もろとも、穴の中に放り込んだものと想定される」と紹介しています。なお、マツバリ(No.73)18号住居址入口部の埋甕からは人骨片が出土しているようです。また、後期前葉には村東山手遺跡(No.21)にも住居跡床面から下肢屈位の人骨が出土しています。

中期末葉から後期前葉の北村(No.68)には、土坑墓⁽⁵⁾と上面配石土坑墓(以下「配石墓」)があります。土坑内の遺体は屈位が大多数を占めますが、まれに伸展もあります。仰臥が最も多いのですが、側臥や俯臥もあります。こうした下肢の形や体向と性差、年齢との有意な関係はありません。そのほか、複数個体分の生骨を集めた土坑(以下「生骨再葬」)や焼骨を納めた(以下「焼骨再葬」)土器棺墓、焼骨再葬の組石棺墓など、北村には後期後葉から晩期へ続くさまざまな墓制がそろっています。

この時期の土坑墓や配石墓はほかに、屋代高速道地点、八幡裏(No.104)などにあり、仰臥屈位が多いようです。一方、後期後半から晩期には宮崎(No.20)、伊那市野口(No.84)、中村中平(No.94)、辻田(No.120)などがあり、宮崎では伸展位の人骨が出土していますが、野口や中村中平、辻田などでは焼骨再葬が確認されています。七五三掛(No.124)では「石のような硬いものが堆積」している最古下層部から盤状集積を示す 7 個体分の生骨再葬がみつかっていると

報告されています。また、組石棺墓は北村や村東山手以降晩期末葉に至るまで、石神(No.122)、宮(No.19)、円光房(No.27)、宮崎と続きます。組石棺墓から出土する人骨の多くは直葬⁽⁶⁾ですが、石神や円光房のように焼骨・生骨再葬例もあります。野口の配石墓には晩期前半の土器片とともに14種60点余りの石器が伴い、宮や円光房の組石棺墓には石鏃、石剣片が、宮崎の土坑墓にはシカ骨や筒形土器、骨針が伴っています⁽⁷⁾。土器棺墓は深町(No.106)に焼骨再葬例があります。

なお、この時代の墓は集落内で建物と混然としていますが、晩期になると円光房や宮崎のように墓群は建物群とは別のまとまりを示すようです。

(2) 弥生時代

長野県内の弥生時代初源期には、松本市針塚遺跡(神沢1983)や安曇野市ほうろく屋敷遺跡(大沢1991)のような土器棺墓が知られていますが、今のところ人骨鑑定例はありません。

中期前半の篠ノ井遺跡群高速道地点(No.11)では、平面方形と推定される土坑内に礫を敷き詰めた(以下「礫床」)2枚の床をもち、下面には16個体分以上、上面は4個体以上を生骨再葬した土坑がみつかっています。この遺跡と至近距離にある塩崎遺跡群伊勢宮(No.10)では同時期の礫床墓2基、木棺墓⁽⁸⁾25基、土坑墓3基が検出されています。遺体は下肢が判明している場合はすべて屈位で、24号木棺墓は仰臥屈位人骨の足元に生骨集骨を合葬しています。また、21号をはじめ複数の木棺墓から供献土器が出土しています。中期後半になると、横田古屋敷(No.63)の礫床墓でも焼骨再葬が確認されています。松原(No.18)には土坑墓と礫床墓があり、ほとんどは直葬ですが、一部に生骨再葬の礫床墓や土器棺墓もみられます。鶴萩七尋岩陰(No.13)や月明沢(No.135)などは、岩陰という特殊な空間に焼骨再葬した例です。

この時期は、針塚やほうろく屋敷の土器棺墓から松原の礫床墓に至るまで、墓群としてまとまる傾向が顕著で、松原や中野市柳沢遺跡(廣田2012)では墓群をはかと区画する溝が検出されたと報告されています。また、伊勢宮や松原、柳沢の礫床墓群では、同形態でありながら、ほかよりも規模を大きくしたり、玉類を多出したりするものが現れます。

後期には木棺墓・土坑墓と土器棺墓の二系統にまとまり、木棺墓は浅川扇状地遺跡群本村東沖(No.4)や篠ノ井新幹線地点、上田原(No.96)などの円形周溝墓や方形周溝墓の主体部に設置されます。篠ノ井では周溝墓群を括る溝が確認されているようです。本村東沖や篠ノ井など、主体部に土器を供献する例があるほか、周溝内から土器が出土する例もあります。一方、土器棺は石川条里(No.5)や篠ノ井新幹線地点で合口土器(甕)棺として存続しますが、再葬墓であるかどうかはわかりません。周防畑(No.142)の土器棺墓からは乳歯が、竹田峯(No.144)からは月齢5か月の胎児骨が出土したと報告されています。また、春山B(No.15)で粘土床の土坑に割竹形の木棺を据えた墓がみつかっています。

(3) 古墳時代

前時代に引き続き、篠ノ井遺跡群の高速道地点や聖川堤防地点(青木・寺島1992)など、平地の集落域で方形周溝墓や前方後方形周溝墓が造られるとともに、瀧の峯古墳群(No.143)に代表されるように集落域から隔絶した丘陵上にも前方後方形墳丘墓が築造されるようになりま

す。長野県内では前期の古墳に人骨出土例はありませんが、中期の主体部土坑（竪穴式石室）内に木棺⁽⁹⁾を設置した七瀬3号墳(No.2)や溝口の塚古墳(No.95)などからは伸展位の人骨が出土していて、生骨・焼骨再葬はありません。これら古墳の主体部には、装身具はもとより武器や馬具、農工具、鏡など、周溝墓の主体部とは比較にならないほど多種多量の副葬品が供伴しています。岩陰を墓所とする鶴萩七尋は古墳時代にも引き続き使われた形跡が遺されており、鳥羽山洞穴(No.102)では5面（地点）にわたり大量の人骨群が装身具、農工具、武器、土師器、須恵器などとともにみつかっています。奥所のⅠ面やⅡ面は「伸展状態の死体の上に死体を重ねて曝葬に付した状態」、開口部寄りⅤ面は「石敷き上に焼土と焼骨や生骨が散在」していて、その間のⅢ面とⅣ面は「石敷き上の各所に焼骨群や曝葬骨がある」といった状態で、地点により葬法に違いがみられるようです。

後期の古墳は主体部に横穴式石室を設けて箱式木棺を置くのが一般化し、追葬を重ねたり盗掘を受けたりすることにより、大室古墳群25号墳(No.7)、松原1号墳、大塚3号墳(No.129)、真光寺古墳(No.140)、寄山古墳(No.161)などのように、複数個体分の人骨が集積あるいは散乱状態でみつかっています。さいわい後世のかく乱などを受けなかった大室古墳群24号墳や丸山古墳(No.62)、半過古墳群2号墳(No.105)は、いずれも伸展位で頭位を玄門に向けています。

以上の古墳や岩陰は、集落域とは異なる場所に構築もしくは群集しますが、少ないながら集落域内からも人骨は出土しています。たとえば廃絶後の住居跡から出土した例は森平(No.159)など弥生中期にもありましたが、榎田(No.6)では4軒で確認されています。榎田ではほかにも土坑墓や、溝に遺棄されたかのような人骨も報告されています。廃屋から出土した例は屋代高速道地点に、土坑墓は篠ノ井新幹線地点や西一本柳(No.148)にもあります。

(4) 古代

飛鳥・奈良時代までは、大穴(No.28)、新村安塚古墳群(No.58)、大久保B(No.74)、郷土2号墳(No.123)など、横穴式石室をもつ古墳そのもの、あるいはその流れをくむ墳墓や石組墓が、県内にくまなく存続します。大穴4・5・6号墳や安塚5号墳、郷土2号墳などのように、追葬などによって生骨が集積されている例がある一方で、大穴3号墳や安塚2・3・7号墳、大久保Bのような焼骨再葬が目立って多くなります。石室内から土器や鏡、刀子が出土する例はありますが、武器、馬具、装身具の副葬は激減しています。一方、集落内で人骨を伴う土坑墓、木棺墓が確認された例はほとんどありません⁽¹⁰⁾。

平安時代には石室や石組施設をもつ墳墓はなくなり、松原、南栗(No.60)、吉田川西(No.67)、西近津(No.149)などの木棺墓や、篠ノ井、峯謡坂(No.36)、笹賀神戸(No.54)などの土坑墓のように、集落内に墓が点在します。出土人骨には伸展位と屈位が相半ばし、北頭位が目立ちます。副葬品は一括重要文化財に指定された吉田川西⁽¹¹⁾を筆頭に、松原SJ3や南栗SK176、西近津SK8204など、木棺墓を中心に焼物類を複数供献する例があります。上五明条里(No.39)SK4の木棺内から鉄鐸9点、鉄製紡錘車が出土していますし、千曲市社宮司遺跡の木棺墓（町田2006）のように大小の刀型木製品と弓形木製品を棺内に副葬しているものもあります。木棺墓の人骨がおおむね直葬で出土する一方、土坑墓の場合は、生仁(No.35)や屋代新幹線地点、笹

賀神戸のように焼骨が出土する場合があります。笹賀神戸や浅川扇状地遺跡群新幹線地点(No.4)では土坑上に集石(以下「集石土坑」)を伴い、吉田川西、筑北村野口(No.70)、宮の上(No.88)には蔵骨器と目される陶器から焼骨が出土する例もあります。さらに、松原や篠ノ井新幹線地点、屋代などでは住居跡の床面または覆土中から人骨が出土しています。松原では道路や溝からも確認されていますし、篠ノ井高速道地点でも溝から人骨が見つかるなど、墓以外に遺体が遺棄されたかのような例もあります。

(5) 中世

県内で人骨が出土した遺跡は中世が最もたくさんあります。前時代に引き続き木棺墓や土坑墓が造られますが、居住域とは一線を画して墓域を形成することが多いようです。向畑(No.61)では762基の墓がほぼ平坦な台地上の中央部と南東部に集中します。火葬施設と考えられるSK1220と、クギの出土により木棺墓と推定される5基を除き、大多数は土坑墓です。墓群内には空白域(墓道)があります。松本市内では川西開田遺跡(竹内2002)でも1,748基の墓が見つかっていて、そのうち98%が土坑墓です。墓は調査区を南北に流れる溝の西側に集中し、重複した数基の土坑墓群が多数集まって1グループを形成し、そのグループが多数集まって墓域を形成しているようです。墓域の中央にはやはり空白域があります。木棺墓が多数を占める遺跡は少なく、土坑墓群のなかに数基の木棺墓が混在しています。珍しい例として、北中(No.51)から石棺墓が見つかります。埋葬される遺体は土坑墓と木棺墓の別なく屈位や伸展位の両方がみられ、北頭位右側臥(西向)例が目立ちます。井上・幸高(No.24)や宮平(No.107)からは座位が確認されています。

中世は土坑墓や木棺墓以上に火葬墓⁽¹²⁾が目立ち、多くの場合火葬施設を伴います。火葬施設の好例は前田(No.156)のOT9号墓壙で、楕円形の土坑底面中央に横断する煙道を持ち、底面両端に石を配しています。底面と配石はよく焼けていて、丸材とワラ状の炭化材を多量に含んだ焼土が堆積していました。焼骨はこの上から出土しています。松原SK2106では多量の焼土や炭化物とともにクギが出土していて、遺体を木棺ごと茶毘に付したと推測されています。火葬施設の周囲からほぼ等間隔のピットも検出されています。窪河原や更埴条里(No.33・31)、屋代遺跡群高速道地点などでは、これらが居住域と異なる場所に土坑墓や木棺墓などとともにありますが、安源寺(No.1)や松原や殿村・東照寺址(No.82)、小山寺窪(No.164)など規模の大きいものになると、土坑墓や木棺墓と火葬墓は占地を異にしているようです。さらに観音平経塚(No.40)や榛名平(No.150)など、ほぼ火葬墓だけで構成されている墓群もあります。火葬された人骨は土坑に埋納される場合が多いのですが、観音平経塚2号墓壙や東照寺址11号集石土壙墓、佐久市地家遺跡(長野県埋文2009)などでは焼物の蔵骨器が出土し、松原SK2111や東照寺址22号集石土壙墓では、焼骨がまとまって出土している状態から、有機質の蔵骨器が想定されています。また、東照寺址や観音平経塚は土坑内に石組がある例もあります。集石土坑墓は松原や観音平経塚、日向林B(No.44)、榛名平、小山寺窪にありますが、五輪塔の空風輪などや宝篋印塔の塔身などが散在したり、写経石を含んだりする場合があります。松原や生仁からは、生骨再葬もみつかります。

副葬品を伴う墓は少ないですが、そのなかで古銭が最も多く、焼物類や刀子がまれにあります。出川(No.47)からは羽子板が出土したとのことです。向畑では鉄滓を伴う土坑墓がいくつかあり、東照寺址の土坑墓には食膳具や土錘が副葬されているものがあります。

(6) 近世

松原の山麓斜面部には中世から続く火葬墓が広がっていますが、近世は向畑などのような大規模な墓群はみつかりません⁽¹³⁾。

石子原(No.91)は近世前半期の土坑墓群で 27 基中 4 基の土坑上面に集石を伴います。遺体は SM07 が伸展位であるほかは屈位で、北頭位右側臥や西頭位が多いようです。ただ幼児埋葬と考えられる SK106・107 は南ないし南西頭位です。石子原にはありませんが、北西ノ久保(No.134)や砂原(No.141)では人骨が座位と考えられる出土状態を示しているようですし、滝沢(No.166)からは俯臥屈葬が確認されています。滝沢 D-60 号出土人骨は埋納時にはすでに首が胴体から離れていたようで、遺体の下にはムシロのようなものを敷き、遺体の周囲に配石したようです。新村秋葉原(No.59)には推定を含む 82 基の墓があります。このうち土坑墓は 7 基で、体位が判明したものはいずれも北頭位屈位です。火葬墓 21 にクギを伴うものがあるため、木棺に納めた遺体を火葬し、焼土や炭化物、灰と一緒に埋めたと想定されています。また、三才(No.9)の SM12 などは火葬骨の蔵骨器として利用した曲げ物が出土していた稀有な例です。

全体的に副葬品を伴う墓は少ないですが、石子原では古銭を中心に、数珠玉、刀子、ハサミ、毛抜き、キセル、手鏡などの日用品を伴っています。

なお、極めて特殊な例として、牛伏寺(No.52)では成人の歯 4,208 本を埋納した塚が、仏法紹隆寺境内(No.79)では入定した円教房智映上人の墓が調査されています。(平林)

3 長野県内遺跡出土古人骨の概要

一覧表に入る前に先行研究にふれておきたいと思います。なお、研究の一部として長野県内で出土した人骨を扱っている研究は多くありますが、それらをここでとりあげることはむづかしいので省きました。

主に考古資料の中で長野県内の墓制や出土人骨について取り上げているものとして、『長野県史考古資料編全 1 巻』の『遺跡地名表』(1981)、『主要遺跡(北・東信)』、『主要遺跡(中・南信)』(1983)、『遺構・遺物』(1988)、長野県県史刊行会編があります。さらに、各時代の墓制については、縄文時代：林茂樹(1970)、永峯光一(1988a)、馬場保之(1994)、弥生時代：永峯光一(1988b)、古墳時代：岩崎卓也(1988a)、奈良・平安時代：桐原健(1988)、原明芳(1995)などの文献にそれぞれ人骨に関する記述も多少あります。中世以降について網羅的に記述しているものはありませんが、藤沢高広(2009)の墓からの出土銭貨の集成も、それぞれ出土遺構についての概要がまとめてあり、人骨に関する基礎的な情報の収集に役立ちました。

人骨からわかることについては、県内の資料では、抜歯や食性についての研究があります。西沢寿晃(1982b)は県内の 8 遺跡の抜歯例についてまとめています。米田穰他(1996)は、炭素・窒素安定同位体比および微量元素量に基づいて北村遺跡人骨などの食性分析を行っています。

また、長野県内の遺跡の出土古人骨を概観、解説したものとして、茂原信生（2008、2011b、2016b、2017）がありますので、本稿をご覧になってその意義について、さらに知りたい方はご参照ください。（茂原・川崎）

4 リストの見方

通し番号は自治体のコード番号にしたがってつけているので、県内の地域ごとにまとまっています。遺跡の名称と読みかた、報告書の人骨に関する部分の著者、発行年度、人骨の所属年代、報告書の題名、出典、報告書に書かれた人骨についての簡単なまとめを入れ、人骨が現在保管されている場所がわかるものは記載しました。

人骨についての記載は、それぞれの遺跡からどれほどの資料が出土しているか、人骨の保存状態はどうか、またその人骨の特徴があればそれを書き、必要と思う事項を簡単に書いています。もちろんスペースの関係で十分に書けていませんがこれからの研究の進展に役に立つような基礎的なデータを載せました。人骨の年齢に関しては研究者によっていろいろな書き方があり統一されていませんがおおよその見当はつくようにしました。

この人骨リストの整理作業にミスがあるとすればそれは形態的な記載をとりまとめた茂原の責任です。もしミスにお気づきになりましたらご連絡いただければ幸いです。今後のリストの充実、ひいては今後の研究に大いに役に立つと思います。（茂原・川崎）

5 長野県内遺跡出土古人骨リスト

北信

中野市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
1	安源寺遺跡	あんげんじ	中世	香原志勢他	1967	中野市
	土葬墓と火葬骨がある、土葬された骨の保存は非常に悪い。1号土葬墓では歯が17本残る、乳様突起は大きい、大腿骨は頑丈、壮年男性(30歳代後半)、他は不明、火葬骨は12基あり、ほとんどが1体分である(重複する部分はない)、詳細不明					
2	七瀬3号古墳	ななせ	古墳	西沢寿晃	1989a	中野市
	保存は悪い、玄室内、伸展葬、頭蓋骨とわずかな長骨片のみ。歯の残りはよい、上左右 M2 に軽度の齲蝕、20代後半女性					
3	山の神古墳	やまのかみ	古墳	神原庄一郎	1953	
	1体分の12本の歯のみ出土、四肢骨欠、屈葬、20～30歳、性別不明、下右 P2 と M2 に小さな齲蝕					

長野市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
4	浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡	あさかわせんじょうち ほんむらひがしおき	弥生後期	寺島孝典	1995	長野市
	弥生時代の墓 10 基(周溝墓 3 基、土坑墓等 7 基)が報告されているが、形質の所見はなし。墓 SZ-1 の木棺底部より、臼歯が 4 本並んだ状態で出土した。SK2 からも歯が出ているが記載はない。					
	浅川扇状地遺跡群	あさかわせんじょうち	中世以降	西香子	2013	県埋文
	桐原地区でみつかった墓(SM4)は、隣接する前年度の調査区で検出された墓と同じように頭を北にして手や足を折り曲げた姿勢で埋葬されていた。					
5	石川条里遺跡(水田域)	いしかわじょうり	弥生後期	茂原信生	1997a	県歴史館
	保存は悪い、2 カ所から 2 体で歯のみ、少年2体(うち 1 体は女性か)。					
	石川条里遺跡(微高地)	いしかわじょうり	中世	茂原信生	1997b	
	保存は悪い、細片。歯がおもな出土物で、全体で3体(青年、16～17 歳女性、不明)。					
6	榎田遺跡	えのきだ	弥生～中世	茂原信生	1999a	県歴史館
	保存は悪い、16 体(弥生6、古墳6、平安 1、中世 2、不明 1)、弥生時代の人骨は渡来系かどうかは不明。古墳時代は渡来系と思われるシャベル型切歯をもつ。					
7	大室古墳群 北谷支群	おおむろ	古墳	中村徹也 (池田次郎 鑑定)	1970	長野市
	保存は悪い、1 体分。下顎歯5本がある、30 歳前後の男性。					
	大室古墳群	おおむろ	古墳	茂原信生他	1992	県歴史館
	5 基の古墳で 22 個体分、保存は悪い。顔面は平坦、長頭、扁平胛骨、25 号墳には 218 本の歯があり、咬耗が少ない若い個体が多い(13 体)。					
8	川田条里遺跡	かわだじょうり	中世	鶴田典昭 (茂原信生 鑑定)	2001	県歴史館
	A2 地区から人骨 2 点が出土(頭頂骨・後頭骨片)。					
9	三才遺跡	さんさい	古墳、近世	茂原信生	1998a	県歴史館
	火葬骨、保存は悪い。頭蓋片は細片が数十点。四肢骨片はごく少ない。さほど高齢ではない。					

10	塩崎遺跡群	しおざき	弥生中期	茂原信生他	1997	長野市
	伊勢宮遺跡	いせみや	弥生	松村博文	1998	
	木棺墓、保存は悪い、歯の保存は良い、シャベル型切歯をもつ。渡来系の影響がある。					
11	篠ノ井遺跡群	しののい	平安以降	矢口忠良	1980	長野市
	頭部を南、顔は東向けの屈葬、保存状態は普通。形態の記載はない。					
	篠ノ井遺跡群	しののい	弥生～平安	茂原信生他	1997	県歴史館
	保存はさほどよくない、弥生時代のものは改葬墓、10 体以上の頭蓋など多数が出土している。渡来系の影響がある。古墳時代遺構からは2体の子供(シャベル型切歯)。					
	篠ノ井遺跡群	しののい	弥生後期～古代	茂原信生	1998b	
	保存は悪い、ほとんどが弥生時代後期。					
12	築地遺跡	ついで	中世	茂原信生	1998e	県歴史館
	保存は悪い、下肢骨が2体分と歯 6 本のみ。					
13	鶴萩七尋岩陰遺跡	つるはぎななひろ	弥生～古墳	阿部修二他	1994	県歴史館
	保存は悪い、3 つの墓壙(最少9体)、焼骨と生骨が混在、弥生時代:最少5体、古墳時代:4体、焼骨は多様で、骨幹より骨端の方が残るなど複雑な状態。					
14	鶴前遺跡	つるまえ	中世	茂原信生他	1994	県歴史館
	保存は悪い、1体分、20 歳前後の男性。					
15	春山 B 遺跡	はるやま B	弥生後期	白居直之 (人歯:茂原 信生鑑定)	1999	県歴史館
	棺内北東側から歯が 2 本出土(上右 P2 と右 M1)、成人前。					
16	平林東沖遺跡	ひらばやし ひがしおき	古墳～平安	ハリノ・サーベイ	2007a	長野市
	保存は悪い、約 6 歳の幼児と老年(伸展葬)。					
17	松代城跡	まつしろじょう	中世 (16c 後半)	西沢寿晃	1995b	長野市
	保存は悪い、2 体(男性 1)、伸展葬か。					
18	松原遺跡	まつばら	弥生、 平安以降	西沢寿晃	1993b	長野市
	保存は良い、9 例、伸展葬 2 例、屈葬 5 例、幼児骨もある。幼年～老年、1 例は弥生時代中期のものの保存は悪い(歯は 17 本残る)。					
	松原遺跡	まつばら	弥生中期	茂原信生	2000d	県歴史館
	保存は部分的に良い。27 基の遺構から出土、焼骨もある、平坦な顔面、下顎が頑丈だがロッカージョーはなく、角前切痕を持つ、ダブルシャベル型切歯をもち、渡来系の影響がある。					
	松原遺跡	まつばら	古代・中世	茂原信生	2000e	県歴史館
	118 例(古墳中期 5 体、古代 22 体、中世 89 体(焼骨が多い))、保存は悪い、平坦な顔面、角前切痕あり、下顎形態の変化、エナメル質減形成は少ない、歯石・齲蝕がある。					
19	宮遺跡	みや	縄文後期	西沢寿晃他	1993	長野市
	保存は良い、抜歯あり(上下左右のC、上右I2:2C型)。					
20	宮崎遺跡	みやざき	縄文	西沢寿晃	1988c	長野市
	保存は悪い、低顔広顔で、立体的な顔貌、抜歯あり(上顎左右 C、下顎左右C、P 1)、柱状大腿骨。					
	宮崎遺跡	みやざき	縄文後晩期	藤澤珠織他	2003	
	1999 年度調査で出土したもの。保存は良い、生後 6～9 ヶ月の乳児、大泉門が残る、歯の残りは良い。					

21	村東山手遺跡	むらひがしやまて	縄文後期、奈良	茂原信生	1999e	県歴史館
	保存は悪い、縄文時代後期 4 体、奈良時代 3 体、不明 2。					
22	屋地遺跡	やち	平安か※	西沢寿晃他	1990	長野市
	1 体：屈葬、下肢骨の保存はいいが他は原形を保たない、壮年男性。 ※平安住居を切る墓壇。					
23	四ツ屋遺跡	よつや	平安	西沢寿晃	1980	長野市
	保存は悪い。生骨、2 体、成人でどちらも性不明、1 号(土壇1、平安時代)は仰臥伸展葬、頭蓋は土圧で変形、下顎枝角が大きい、壮年性不明、2 号(出土地点不明)は頭蓋の一部のみが残る、成人性不明					

須坂市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
24	井上・幸高遺跡群	いのうえ・こうたか	1 号土坑 中世以降 2 号土坑 江戸	茂原信生	2004	須坂市
	保存は比較的良好。1 号土坑：壮年女性、長頭、上顎歯槽の退縮、ダブルシャベル型切歯をもつ。2 号土坑：修験者か、頭蓋はきゃしゃだが壮年男性。切歯の叢生(歯と顎の不調和)がある。					
25	行人塚古墳	ぎょうにんつか	古墳	金井正三	1978	須坂市
	保存は悪い、人骨が「複数体出ている」という記載あり、出土状況の写真のみ。					
26	本郷大塚古墳	ほんごうおおつか	古墳	西沢寿晃	1992b	須坂市
	保存は悪い、最少 2 体、焼骨と生骨。					

千曲市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
27	円光房遺跡	えんこうぼう	縄文	西沢寿晃	1990b	千曲市
	保存は悪い、14 基の配石墓、生骨と焼骨が混在、形態は記載できない。					
28	大穴遺跡	おおあな	古墳 (7c 後半～ 8c 前半)	茂原信生	1997c	県歴史館
	保存は悪い、焼骨もある、7体が出土、(5 号墳から4体)。					
29	大境遺跡	おおざかい	中世以降	佐藤信之	1995	千曲市
	保存は悪い、13 基の土壇墓、3 号土坑墓:顔面を右に向けた屈葬、11 号土壇墓:屈葬、形態の記載はない。うち 2 基には馬も埋葬されていた。形質の所見はない。					
30	倉科将軍塚古墳	くらしなしょうぐんつか	古墳	茂原信生他	2003	千曲市
	保存は悪い、将軍塚は頭蓋骨の右頭頂上部のみ、2号墳は埋葬後に攪乱を受けている、筋のよく発達した熟年男性。					
31	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	弥生～古墳	茂原信生	1998c	県歴史館
	歯1点のみ、上 I2 はシャベル型切歯。					
32	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	古墳以降	茂原信生	1998f	
	保存は悪い、焼骨を含む、散乱、5体+α(幼児を含む)。					
33	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	古代～中世	茂原信生	2000b	
	保存は悪い、41 体が出土、更埴条里遺跡(12 体):木棺墓と土壇墓、焼骨を含む、歯が主、シャベル型切歯をもつ。屋代遺跡群(13 体):火葬骨は少ない、歯は残る、外耳道骨腫2例。窪河原遺跡群(中世 16 体)保存は良い、焼骨が多い、平坦な顔。					

	屋代遺跡群	やしろ	縄文	茂原信生	2000b	
31	保存は悪い、縄文中期 21 体、同じ住居址に 2 体の例。					
32	更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡	こうしょくじょうり・やしろ・くぼがわら	弥生・古墳～奈良・平安	西本豊弘他	2000	県歴史館
33	117 号住居から左膝蓋骨、表面が黒化、火を受けたか。混入の可能性もある。奈良時代:25 号住居から上顎左側切歯 1 本、42 号住居から左脛骨骨幹部、いずれも成人。弥生～平安時代:頭蓋骨の一部、四肢骨、下顎骨など、他に新生児。					
34	小坂西遺跡	こさかにし	平安～中世	茂原信生他	1994	県歴史館
	保存は悪い、100 点ほどの焼骨、最少2体。					
	生仁遺跡	なまに	平安～中世	森本岩太郎	1969	
	保存は悪い、11 体(幼児 9 体を含む)、頭蓋はほとんどなし。					
35	生仁遺跡	なまに	平安	岩崎卓也	1988b	千曲市
	平安時代の焼失住居跡(H3 号住)の床上から伏臥の男性人骨出土。					
	生仁遺跡	なまに	弥生後期	森嶋 稔	1994	
	昭和 45 年度の生仁地籍北域の中世城館址「生仁城跡」(東京教育大調査)において弥生時代後期(箱清水式期)の土器群と共に抜歯の行われた頭骨が検出された。					
36	峯謡坂遺跡	みねうたいざか	古代	茂原信生他	2012	県歴史館
	保存は良くない、SM01 成人男性、SM02 成人性不明遊離歯のみ、SM03 成人女性、SM04 幼児(6 歳以下)性不明、SM05 成人男性、咬耗やや進む、SM06 成人性不明、頭蓋骨の一部のみ。					
37	森將軍塚古墳(3 号石室等)	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1983c	千曲市
	3 号石室:壮年、頭蓋の一部と歯。7号石棺:頭蓋の一部と大腿骨片、成人。50 号石棺:やや残りがよい、上腕骨、橈骨、大腿骨など、歯はかなりある、下 P2 は根尖閉鎖していない、10 歳程度。					
	森將軍塚古墳(2 号墳)	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1986b	
	保存は良い、男女一体ずつ、男性は頑丈、柱状大腿骨。					
	森將軍塚古墳(3 号石室ほか※)	もりしょうぐんつか	古墳	西沢寿晃	1992c	
	保存は悪い、3 号石室は壮年程度、50 号組合式箱形石棺は 10 歳くらい、11 号埴輪棺はやや若年。※7 号組合式箱形石棺、50 号組合式箱形石棺、11 号埴輪棺、2 号墳、3 号墳、8 号墳、14 号墳等を含む。					
38	湯ノ崎遺跡	ゆのさき	中世	小野紀男	1998	千曲市
	中世墓 21 基。18 号土坑:保存は悪い。頭蓋骨の一部と、四肢骨の一部がかるうじて残存していたのみである。この他、3 号古墳より 2 体中世の人骨が出土した。中世と判断された根拠や形質の所見はなし。					

坂城町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
39	上五明条里水田址	かみごみょうじょうり	平安 (10c 後半)	茂原信生	2011a	坂城町
	保存は悪い、いずれも歯のみ 4 体、住居出土の 1 体は 8 歳前後、木棺墓の 1 体は 10 代後半女性、ほかは詳細不明。					
40	観音平経塚	かんのんだいらきょう づか	古代～中世	茂原信生	1999b	県歴史館
	蔵骨器に納められた焼骨、約 11 kg、少なくとも5体以上。					

	保地遺跡	ぼち	縄文後晩期	石川日出志	2002	
			縄文晩期	茂原信生	2002	
41	5 基の墓壇、最少 17 体、再葬でバラバラ、個体識別が困難なものが多い、頭型は多様、広顔・低顔、柱状大腿骨、1 例でクリブラ・オルビタリアあり、抜歯あり(上下顎の C、P1、C のみ)西沢の報告(下顎C)とは別の型。					坂城町
42	山崎北遺跡	やまざききた	中世	茂原信生	1999f	県歴史館
	保存は悪い、6基の土壇墓・火葬墓で5体、乳児、幼児などを含む。					

高山村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
43	湯倉洞窟遺跡	ゆくら(ゆぐら)	縄文早期	森本岩太郎 他	2001	高山村
	保存は良い、1 個体、壮年女性、抜歯はない、鉗子状咬合：咬耗顕著、鞍状磨耗、下顎隆起あり、下顎長は小さい、一部の形質は後期の縄文人的なものもある。一応きやしゃ、追加散乱人骨(5体)あり。					

信濃町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
44	日向林B遺跡	ひなたばやし B	室町中期、 (15C)	春日和彦	1995	県歴史館
	土壇 23 基から焼骨が出土している。					

飯綱町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
45	丸山遺跡	まるやま	縄文前期	高橋桂(29号土壇は太田文雄)	1978	飯綱町
	指頭大の人骨 10 数片が検出されている。					

中信

大町市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
46	山の神遺跡	やまのかみ	江戸	茂原信生他	2003	大町市
	保存は悪い、1 体分、おもに頭蓋骨と四肢骨の一部が残る。壮年女性か、顎関節症。					

松本市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
47	出川遺跡	いでがわ	中世	西沢寿晃	1990a	松本市
	火葬墓 4 基、土葬墓 3 基、土葬墓は歯のみで全て混合歯列の幼児。					
48	内田雨堀遺跡	うちだあめほり	不明	西沢寿晃	1981a	松本市
	焼骨、2 号住居址から出土、頭蓋骨片 35 点のように細片化している、縄文時代ではない後世のもの、詳細は不明。					
49	カニホリ東遺跡	かにほりひがし	中世以降	西沢寿晃	2008	松本市
	火葬墓 220 土(土坑)、焼骨はすべて人骨、比較的太くて長い棒状の骨が外周に並べてあり、その内側北側に大きな破片、南側に小破片が検出された。ほぼ全身にわたる部位の骨が認められる。全量約 1,900g。					
50	北方遺跡	きたかた	中世	上田典男 (西沢寿晃 教示)	1989b	県歴史館
	保存は非常に悪い、土葬墓 2 基と火葬墓 9 基。SK539:出土遺物:北東隅の曲物の中から上・下顎骨及び歯と銭貨が出土。座位の埋葬姿勢、あるいは改葬。木棺墓。SK221:土坑中央部に多量の焼骨片と炭化物の集中部がある。骨粉状態で、頭骨、大腿骨、手指骨がある。他所で火葬した後に、ここに埋納されたか。SK225:頭骨・脊椎骨・大腿骨・脛骨がある。大腿骨は粗線がやや強く発達するが、男性骨とは断定し難い。					

	北中遺跡	きたなか	中世	上田典男 (西沢寿晃 教示)	1989a	県歴史館
51	土葬墓 1 基と火葬墓(火葬施設) 8 基。SK252: 2 層を中心として出土している。焼骨片で、頭骨、下顎骨、橈骨、肋骨、手指骨がある。SK254: 焼骨片で、頭骨、上・下顎骨、脊椎骨、肋骨、肩甲骨、指骨の他、切歯がある。火葬骨の部位が豊富である。					
52	牛伏寺遺跡	ごふくじ	江戸	信濃毎日新聞	2012	松本市
	新聞記事、本報告はまだ出ていない。多量の歯(約 4,200 本)が出土。					
53	笹賀くまのかわ遺跡	ささがくまのかわ		西沢寿晃	1982a	松本市
	3 か所の墓址から焼骨、細片のみ出土。詳細は不明。					
	笹賀神戸遺跡	ささがごうど		西沢寿晃	1981b	松本市
54	焼骨、第6・18 号墓址から出土。四肢骨の種別をようやく判別できる程度に細片化している、頭蓋骨は 10 数片。					
55	三の宮遺跡	さんのみや	中世	望月 映 (西沢寿晃 教示)	1990	県歴史館
	墓址 9 基(うち 3 基が火葬墓)。SK2778: 焼骨はほぼ全身部位に渡る。女性的な特徴を有する。					
56	中二子遺跡	なかふたご	中世	野村一寿 (茂原信生 教示)	1989	県歴史館
	中央部に骨片が集中する。焼骨で、頭蓋骨各部・仙骨・肋骨・鎖骨・上腕骨・大腿骨・指骨の各部位が認められ、一体分の人骨と考えられる。					
	中山古墳群	なかやま	古墳	直井雅尚	2004	松本市
	第 57 号古墳から人骨とみられる焼骨が出土。					
57	中山古墳群	なかやま	古墳	西沢寿晃	2008	
	11 基から出土している、小片のみのものもある、焼骨、ほぼ全身が出ている古墳もある(64 号墳)、全量約 2,700g。					
58	新村安塚古墳群	にいむらやすつか	古墳	西沢寿晃	1979b	松本市
	8 基の古墳から出土、保存は悪い、攪乱あり。					
59	新村秋葉原	にいむらあきはばら	古墳: 古代 墓址: 近世	西沢寿晃	1983a	松本市
	火葬骨が中心で残りはよくない。生骨の保存は悪い。1 号古墳: 2 個体、630 グラム、熟年性不明。共伴遺物から奈良時代の人骨とされる。B 地点: 保存は悪い。全体で 12 墓址、うち土葬の生骨のものは 5 墓址である。					
60	南栗遺跡	みなみぐり	古代・中世	市村勝巳 (西沢寿晃 教示)	1990	県歴史館
	古代の墓 7 基、中世の墓 6 基。中世土葬墓 SK486: 頭位を北に向け埋葬、木棺を使用したか否かは不明。保存が良く、歯、上腕骨、大腿骨、脛骨が残る。屈葬。歯列はよく残るが、上顎と下顎の位置が逆転している。歯は男性的で、40 歳以降。					
61	向畑遺跡	むかいはた	不明	西沢寿晃	1989a	松本市
	骨盤から下肢が残る、上肢と歯が残る。壮年男性、大腿骨上部は扁平、柱状性は低い、近世以降の可能性もある。					
62	丸山古墳	まるやま	古墳	西沢寿晃	1993c	松本市
	保存は悪い。玄室の骨蔵器内、生骨と焼骨が混在するが焼骨が多い。生骨: 1 個体分、歯 11 本、咬耗はやや進む、壮年男性。焼骨: 1 個体分、男性的、年齢不明。					
63	横田古屋敷遺跡	よこたふるやしき	弥生中期 後半～末期	ハ'リノ・サーヘ'イ	2012	松本市
	墓4の木棺墓から出土、焼骨、再葬の火葬骨か、少なくとも 3 体分、6～10 歳程度と熟年が含まれる。形態の記載は少ない。同位体分析がされている。					

塩尻市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
64	五輪堂遺跡	ごりんどう	近世	西沢寿晃	1989c	塩尻市
	保存状態はよくない。幼児骨が1体分、下顎骨の残りはよい、歯の残りはよい、上下顎の切歯は永久歯の混合歯列、椎骨や肋骨は残る、大腿骨全長は260mm、7～8歳で性別不明					
65	彌ノ神古墳	ねのかみ	古墳	西沢寿晃	1986c	塩尻市
	保存は非常に悪い、数個体分の長骨を2・3段に積み重ねた再葬、大腿骨片から最少5体。男女が含まれる。					
66	平出2号墳	ひらいで	古墳	西沢寿晃	1985d	塩尻市
	歯が2本(下右Cと下右M2)と大腿骨片、脛骨片が出土しただけである。出土状況は不明、歯の咬耗は軽度、大腿骨は太く頑丈で男性的、成人であろう。					
67	吉田川西遺跡	よしだかわにし	平安 (10～11世紀)	金原正 (西沢寿晃 鑑定)	1989	県歴史館
	墓 SM01: 須恵器壺の下半部に火葬骨片が詰まっていた。骨は人骨で、後頭骨、大腿骨、脛骨、足根骨の細片がある。					

安曇野市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
68	北村遺跡	きたむら	縄文	茂原信生	1993a	県歴史館
		きたむら	縄文後晩期	茂原信生	1994	
	保存はやや悪い、190 体ほどの出土、出土数は海岸部の遺跡に匹敵し、山間部縄文人として貴重なもの。抜歯がない。					

山形村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
69	名籠遺跡	なろう	中世	ハ'リノ・サーベ'イ	2007b	山形村
	13基、焼骨、土葬墓もある、歯も残る。SK159(土葬):壮年前半・性不明。SK396(土葬):成人男性、中世の頭蓋。SK577(土葬):成人詳細不明。SK562(土葬):壮年前半、性不明。SK446(土葬):5～6歳の幼児。他は火葬骨。					

筑北村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
70	野口遺跡	のぐち	平安初	茂原信生	1993b	県歴史館
	10 数点の焼骨、詳細不明。					
71	向六工遺跡	むかいゐつく	中世	茂原信生	1993c	県歴史館
	100 点ほどの焼骨、ごく一部のみが同定可、女性か。					

大桑村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
72	大明神遺跡	だいみょうじん	縄文晩期か	西沢寿晃	1988a	大桑村
	焼骨、多彩な色調、最少 2 体、変形性脊椎症、蹲踞面がある。					

木曽町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
73	マツバリ遺跡	まつばり	縄文後期	西沢寿晃	1995c	木曽町
	保存は悪い。すべて焼骨、少量だが動物骨が混在する、主に4つの墓壇でいずれも成人で性別は不明、B-3 墓坑は全身にわたる部位が出土している					

南信

岡谷市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
74	大久保 B 遺跡	おおくぼ B	奈良前半	西沢寿晃	1987	県歴史館
	焼骨に一部不完全な焼骨が混じる(熱の受け方が部位により異なる)。約 50 片、400g 程度。部位としては全身にわたる、詳細は不明。1 体分だろう。					
75	膳棚 B(白山)遺跡	ぜんだな B(はくさん)	奈良末から平安末	関賢次 (西沢寿晃鑑定)	1987	県歴史館
	骨片が多く鑑定困難だが、表面の状況から火葬人骨の可能性が高い。骨蔵器・副葬品はない。					
76	カロウトイシ古墳	かろうといし	古墳	西沢寿晃	1976	岡谷市
	2個体、火葬骨。					
77	梨久保遺跡	なしくぼ	縄文	西沢寿晃	1986d	岡谷市
	保存は悪い。焼骨のみである、少量の動物骨が混在する、住居址内は少量、小堅穴は多くあるが、焼骨の比較的残るのものは 6 基、どれも年齢・性不明である、それぞれが 1 体分であろう、時期は中期中葉から後葉の可能性が高い					

諏訪市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
78	曾根遺跡	そね	縄文草創期	綿田弘実他	2000	東大総博
	湖底の遺跡、人骨が何かは不明。					
79	仏法紹隆寺境内遺跡	ぶつぼうしょうりゅうじ	江戸	森本岩太郎他	1986	諏訪市
	保存は良い、再埋葬、30歳代、歯の脱落が多い、変形性脊椎症。					

茅野市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
80	棚畑遺跡	たなばたけ	縄文中期	西沢寿晃	1990c	諏訪市
	焼骨、保存は悪い、別の場所で焼かれている。					
81	御社宮司遺跡	みしゃぐうじ	不明	西沢寿晃	1982c	茅野市
	焼骨片、年齢等全て不明。					

下諏訪町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
82	殿村・東照寺址遺跡	とのむら	平安～中世	西沢寿晃	1990d	下諏訪町
	焼骨、蔵骨器内は最少個体4体、他に2例。					

原村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
83	上居沢尾根遺跡	かみいざわおね	近世	平出一治	1995	原村
	4体の人骨が出たとの記述がある。DNA解析に使われたらしい(米田ら)。					

伊那市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
84	野口墳墓遺跡	のぐち	縄文晩期	西沢寿晃	1982b	伊那市
	21 体の人骨(熟年 6、壮年 10、若年 2、不明 3)、焼骨、そのうち 10 個体に抜歯がある。					
	野口遺跡	のぐち	縄文晩期 前半	林 茂樹 (人骨・鈴木 誠測定検証)	1983	
	人骨群は当初9塊ほど存在したと思われるが、検出したのは7塊。すべて火熱を受けている。四肢骨には原形をとどめているものがあり、頭蓋骨片もある。下顎骨数によって個体数を推定すると、31 個体。性別は不明。老・熟年各4、壮年 20、若年2体。犬					

84	歯の抜歯があるもの老年1、熟年2、壮年8体。若年2例には抜歯はない。大部分に上下の犬歯抜去がある。5号人骨塊中には、上下顎の切歯(I2)及び犬歯計4本を抜歯したものがある。					伊那市
	野口遺跡	のぐち	縄文晩期 前半	永峯光一	1988a	
	7群の焼けた人骨が出土している。下顎で数えると31個体分あり、その内11例の両側犬歯抜歯例がある。側切歯の抜歯を伴う場合もある。					
85	宮場間様十三塚 遺跡	みやばまさまじゅう さんづか	近世	飯塚政美(西 沢寿晃教示)	1987	伊那市
	1号、7号、8号墳墓より人骨出土。1号墳:戦国期。7号墳:火葬骨少量、戦国期。8号墳:江戸時代後期、8号-1:3体出土、40歳ほどの男性、35歳くらいの女性、7〜8歳の幼児。8号-2:人骨が出土の記載のみ。8号-3:男性の頭骨。					

駒ケ根市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
86	七免川 B 遺跡	しちめんがわ B	中世	小原晃一	1980	駒ヶ根市
	1号火葬墓及び南側人骨集中部からの計2個体分、1号墓はほぼ全身にわたって出土、歯もある、灰白色、詳細不明。					

箕輪町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
87	源波古墳	げんなみ	古墳	西沢寿晃	1988d	箕輪町
	保存はきわめて悪い。玄室内のものが多く、中央部に集中する、30 数本の歯が残る（歯冠エナメル質のみ）、成人の最少個体数は 3 体、他に乳臼歯（幼児）が混在する、玄室外は四肢骨など少量で焼骨も含まれる					

南箕輪村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
88	宮の上遺跡	みやのうえ	平安 (9c 後半)	西沢寿晃	1994b	南箕輪村
	骨壺(光ヶ丘Ⅰ窯式)に埋納、焼骨が1体分、熟年以降の女性か。					

中川村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
89	天伯古墳	てんぱく	古墳	友野良一他	1986	中川村
	保存は悪い。					
90	六万部古墳	ろくまんぶ	古墳	鈴木誠	1966b	中川村
	状態は良くない。右頭頂骨と左側頭骨の一部、第2頸椎と胸椎1個が残る、四肢骨は少なく、細片化。左側頭骨錐体部が2個あり2体分が混在(若年性不明と壮年男性)、歯は9本残る(若年:下左 C～M3、右 P1、M2、壮年:左上 M2)					

飯田市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
91	石子原遺跡	いしこばら	近世	茂原信生他	2007	飯田市
	24 の墓坑のうち人骨が確認されたのは 20 墓坑。保存状態はよくないが幼児骨もある、詳細は不明なものが多い。埋葬姿勢も様々。年齢は 6 歳程度の幼児から、老齢と多様。成人の下顎歯が 14 例 そのうち 老 齢 2 例、熟 年 2 例、壮 年～熟 年 1 例、青 年 4 例、詳細不明の成人 5 例。少年 1 例、幼年 5 例。篠田 (2007) による DNA 分析がある。					
92	神之峯城跡	かんのみねじょうあと	中世	茂原信生	2016a	飯田市
	保存は悪い。きゃしゃな四肢骨や寛骨(骨盤)が残存。大腿骨は非常に細い、若い個体、それも妊娠経験のない成人に近い若い女性である可能性が高い。					

93	下村遺跡 (鶯ヶ城跡)	しもむら (うぐいすがじょうあと)	中世	茂原信生	2012	飯田市
	保存は悪い、5 体、墓 SM01 は骨以外に歯が 17 本ある。					
94	中村中平遺跡	なかむらなかだいら	縄文晩期	馬場保之	1994	飯田市
	【要旨】中村中平遺跡を中心に、長野県南部の墓制について記述。					
	中村中平遺跡	なかむらなかだいら	縄文後晩期	茂原信生他	1996	
	36 kg ほどの焼骨が出土。配石墓9号から最少 16 体。一体分の火葬骨重量についての考察あり。					
95	溝口の塚古墳	みぞくちのつか	古墳	長岡朋人他	2001	飯田市
	保存は普通、仰臥伸展葬、シャベル型切歯である。1 体分、壮年～熟年(40 歳前後)、咬耗は少ない、扁平脛骨、歯槽膿漏あり。					

東信

上田市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
96	上田原遺跡	うへだはら	縄文～平安	西沢寿晃	1996	上田市
	保存は悪い、生骨と焼骨が混在、抜歯の可能性ある(上左右犬歯と左I2、下左右I、I2、C)。					
97	他田塚古墳	おさだつか	古墳	小林幹男か	1973	上田市
	保存は悪い、下半身のみ、歯が数点残る。成人男子、かなり高身長。					
98	下郷第2号墳	しもごう	古墳	西沢寿晃	1992a	上田市
	保存は悪い、複数個体が玄室に集積されていた、歯は 50 数本、最少4体。					
99	陣の岩陰遺跡	じんのいわ	不明	綿田弘実	2006	県歴史館
	頭骨片 2 点、下顎小臼歯 1 点、時代は不明。					
100	陣馬塚古墳	じんばつか	古墳	茂原信生	1999c	県歴史館
	保存は悪い、1 区3体(1体は乳児)。					
101	塚穴原古墳 1 号	つかあなはら	古墳	塩入秀敏	1976	上田市
	骨粉化した 5 体以上の骨、攪乱あり。					
102	鳥羽山洞穴遺跡	とばやま	古墳	永峯光一	1982	上田市
	【要旨】形態についての記載はない、伸展葬、焼骨、5 面の段状部がある葬所。					
	鳥羽山洞穴遺跡	とばやまどうけつ	古墳	金子浩昌	2000	
保存のよい生骨と細片化した焼骨、焼骨の個体数は不明(生骨より多い)、若年から青年までを含む、何個体かが追葬されたもの、埋葬後移動している可能性がある。生骨は4個体ほど。						
103	豊原古墳	とよはら	古墳	西沢寿晃	1988b	上田市
	保存は良い、二次埋葬、最少個体 5 体、大腿骨上部が扁平、10～20 歳代2体、壮年、乳児。咬耗はどれも軽度。					
104	八幡裏遺跡	はちまんうら	縄文	西沢寿晃	1997b	上田市
	保存は悪い、4体(熟年男性、熟年男性、壮年男性、不明)。					
105	半過古墳群	はんが	古墳	谷畑美帆	2009	上田市
	保存は悪い、3 基の古墳、それぞれ小児を含む 2～3 体が出土。					
106	深町遺跡	ふかまち	縄文か	西沢寿晃	1979a	上田市
	保存は悪い、16 体、抜歯あり(上下の犬歯:女性)、外耳道骨腫、大腿骨の柱状性など全体に縄文人的特徴を示す。					
107	宮平遺跡	みやだいら	中世以降	茂原信生	1999d	県歴史館
	保存は悪い、7 つの墓壇、男性 2 女性 1、他は不明。					
108	弥勒堂遺跡	みろくどう	平安後半～中世	茂原信生	1998g	県歴史館
	保存は悪い、5体(乳児を含む)、扁平脛骨。					

東御市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
109	伊勢原第2号古墳	いせはら	古墳	西沢寿晃	1990e	東御市
	保存は悪い。1体分で一部のみが残る、玄室内の1箇所に集積されている、上顎骨の切歯部は歯槽が閉鎖、他の歯の脱落もある、右大腿骨はほぼ残る、400mmで推定身長は156cm(ピアソン式)、男性の高齢者					
110	右近塚古墳	うこんづか	古墳	八幡一郎	1950	
	取上げ困難な断片が散在。一体分でなく、しかも下肢骨らしいものが頭骨片の傍にあったり、歯牙が胸椎とあるなど攪乱がある。					
	右近塚古墳	うこんづか	古墳	吉田章一郎 他	1950	
	東京大学人類学教室の鈴木尚博士の調査、少なくとも4体以上存在。2体は頭蓋の縫合癒着と臼歯から老年の男性。乳歯と頭蓋骨片とから見て小児の骨が1体あるが性は不明。他の2体は成人の頭蓋骨片で、その中の1体は女性。					
111	大川	おおかわ	縄文	鈴木 誠	1957	
	保存は悪い、土器に入れられていた、頭蓋の一部と13本の歯、熟年男性。					
112	海善寺古墳	かいぜんじ	古墳時代	大附勝敏	1950	
	保存悪い、頭蓋・四肢は細片、歯は65本、最少個体(歯)は7体。					
113	狐山古墳	きつねやま	古墳	西沢寿晃	1985b	東御市
	保存は悪い、3行の記載のみ、骨片と歯8本が出土。					
114	久保在家遺跡	くぼざいけ	不明、江戸	西沢寿晃	1985a	東御市
	歯のみ、保存は悪い、壮年。					
115	桜井戸遺跡	さくらいど	縄文 後期前半か	鈴木誠他	1970	東御市
	保存は悪い、乳幼児1体。					
116	桜畑遺跡	さくらはた	古代～中世	川崎 保 (茂原信生 所見)	1999b	県歴史館
	SK198から出土、保存は非常に悪い。頭蓋骨の一部、歯12本が残る、壮年程度、性別不明。					
117	獅子塚古墳	ししづか	古墳	西沢寿晃	1994c	東御市
	保存は悪く、歯冠エナメル質だけが残る。30本弱で重複はない、1体分、咬耗は軽度である、20～30歳代、歯は小さく女性的、別に咬耗の異なる臼歯が4本混入する、この個体は高齢					
118	下金山遺跡	しもかなやま		西沢寿晃	1993a	東御市
	人骨の可能性のある生の長骨片が出土。保存は悪い、他は獣骨。					
119	真行寺遺跡群	しんぎょうじ	中世	川崎 保 (茂原信生 所見)	1999a	県歴史館
	SK177から出土、B-7は歯が2本、B-8は歯が6本出土(2個体分の歯)、いずれも20歳代程度。性別不明。					
120	辻田遺跡	つじた	縄文か	西沢寿晃	1995a	東御市
	焼骨、保存は悪い、2体以上が混在。					
121	不動坂遺跡	ふどうざか		西沢寿晃	1986a	東御市
	3基の火葬墓、焼骨で細片化している。火葬墓2:ほぼ全身の部位がでている、頭蓋の縫合は癒合していない。火葬墓3:ほぼ全身、細片化している、上腕骨はほぼすべて残る。どちらも形質は不明。					

小諸市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
122	石神遺跡	いしがみ	縄文後期	西沢寿晃	1994a	小諸市
	保存は悪い、8体、(3例石棺、4例墓壇、合葬1例:男女の合葬か)磨耗顕著、抜歯あり(上顎左右I2、C)。					
123	郷土遺跡	ごうど	古墳(8世紀)	茂原信生	2000c	県歴史館
	保存は悪い、2号墳が主、最少3体。					
124	七五三掛遺跡	しめかけ	縄文後晩期	田中和彦	2003	小諸市
	保存は良い、抜歯あり(上顎左右Cと右I2が2例、抜歯なし1例、不明1例、下顎左右I1、I2、Cが3例、左右のI1、I2が1例、左I1が1例)。下顎骨が11、小児2例、盤状集積墓か、一般的な縄文人タイプ、柱状大腿骨。					
125	関口A遺跡	せきぐちA		西沢寿晃	1991	小諸市
	保存は良くない、1個体分、完存部はない、膝は屈曲している、外後頭隆起は弱い、歯は22本の永久歯が残る、M3は不明、咬合はやや進んでいる、齶蝕が顕著、大腿骨粗線は弱い、壮年女性。					
126	与良城跡遺跡	よらじょうせき	平安中世	田中和彦	1998	小諸市
	1個体分、保存は良くない、上M2の歯根は未完成、乳歯がある、10歳前後、性別不明。					
127	竹花遺跡・大塚原遺跡	たけはな・おおつかはら	奈良	金子浩昌	1994	小諸市
	4号土坑から大腿骨片との記載のみ。					

佐久市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
128	蟻畑遺跡	ありばたけ	弥生後期	竹内 恒 (香原志勢 教示)	1969	
	大きな二枚の岩の下の子き間から出土、保存は良い、頭蓋骨1体分、成人女性 30 歳程度(香原志勢鑑定)、概要のみで詳細不明。					
129	大塚第 3 号古墳	おおつか	古墳	西沢寿晃	1997a	佐久市
	保存は悪い、攪乱あり、最少 2 体。					
130	今井宮の前遺跡	いまいみやのまえ	近世	柳澤 亮 (茂原信生 鑑定)	2014	佐久市
	歯冠のエナメル質のみが残る。12 本歯冠があり、ほかに下顎切歯の歯冠片 1 本を含む数本分の歯の破片がある。下顎切歯や M1 に軽度の咬耗がある。M2 にはほとんど咬耗はない。M3 はまだ萌出していない可能性がある。10 歳代後半。性別は不明。					
131	金井城跡	かないじょう	江戸	森本岩太郎	1991	佐久市
	保存は良い、7 体分(男性 3、女性 4)、行路病者か、咬耗進む、歯の病変あり、歯槽性突顎、蹲踞面あり、変形性脊椎症。					
132	上直路遺跡	かみすぐじ	弥生後期	永峯光一	1988b	佐久市
	強くは焼けていない人骨片があった。					
	上直路遺跡	かみすぐじ	弥生後期	森本岩太郎	1998	
	両腕に併せて 14 点以上の帯状円環形銅釦をはめた人骨。性別不詳の成人骨。橈骨、尺骨、寛骨片、上腕骨滑車片、腓骨片。埋葬後、被熱を受けたものと考えられる。					
133	観音堂遺跡	かんのんどう	中世	平田和明他	1999a	佐久市
	3体、うち2体は断片的(老年と熟年)、1体は1歳の乳児。					

134	北西ノ久保遺跡	きたにしのくぼ	江戸	森本岩太郎	1987a	佐久市
	保存は良い、3体(女性2・男性1)、歯の脱落や病変が多い、女性1体は梅毒性骨膜炎。					
135	月明沢遺跡	げつめいさわ	弥生	西沢寿晃他	1978	佐久市
	穿孔された歯がある(上右 M3)、成人4体幼児1体、抜歯あり(上右 I2、C、左C下顎欠:別個体の下顎左 I2、C 右は欠)。					
136	五里田遺跡	ごりた	弥生後期	平田和明他	1999b	佐久市
	保存は非常に悪い、2体分、1 体は時期不明。					
137	五霊西 12 号古墳	ごりょうにし	古墳	町田拓也他	1988	佐久市
	保存は悪い、2〜3体、歯からの判別、頑丈な男性、発達した下顎骨。					
138	幸神古墳群	さいのかみ	古墳	町田拓也他	1996	佐久市
	保存は悪い、7基ほどの古墳から出土、いずれも断片的、歯の残りは悪くない。					
139	下聖端遺跡	しもひじりばた	江戸	森本岩太郎	1992	佐久市
	保存は良い、1 体分、大腿骨は柱状性を示す、咬耗顕著、骨折治癒痕がある。					
140	真光寺古墳	しんこうじ	古墳	西沢寿晃	1983b	佐久市
	保存は悪い、2 個所の人骨群で石室内 10 個体、大腿骨は扁平でない。					
141	砂原遺跡	すなはら	江戸	茂原信生	1998d	県歴史館
	保存は良い、男性1女性4の5体高齢の個体が多い。					
142	周防畑遺跡群	すぼうばた	弥生	上田真 (茂原信生他 鑑定)	2014	佐久市
	3 号土器棺墓:ヒトの乳歯か 2 本。35 号住居址:ヒトと思われる四肢骨片。					
143	瀧の峯古墳群2号墳	たきのみね	古墳	森本岩太郎	1987b	佐久市
	骨はなく、歯のみの出土、10 本、壮年女性、4 世紀。					
144	竹田峯遺跡	たけだみね	弥生後期	森本岩太郎	1986	佐久市
	壺棺内に5ヶ月齢の胎児骨。					
145	長峯古墳群	ながみね	古墳	森本岩太郎	1988	佐久市
	保存は悪い、3 体(成人男性1、成人女性2)、横穴玄室内。					
146	中宿遺跡	なかやど	中世〜近世	宮崎重雄	1998	佐久市
	頭蓋骨片が 5 点出土しているだけである (OT3)。縫合から高齢 (熟年〜老年) とされる					
147	西一里塚遺跡群	にしいちりづか	弥生	櫻井秀雄 (骨:茂原信 生鑑定)	2012	歴史館 ※
	木棺墓 SM07:歯2本。上顎右 M と下顎左 M。上顎右 M は、M2 あるいは M1、咬耗がない。隣接面摩耗もない。下顎左 M は、M2 あるいは M3、咬耗がない。隣接面摩耗は不明。同一個体と考えらえる。10 歳代前半の若い個体。性別は不明。					
148	西一本柳遺跡	にしいつぼんやなぎ	古墳	平田和明他	2001a	歴史館 ※
	保存は悪い、墓壙より 1 体、歯のみ、壮年。					
149	西近津遺跡群	にしちかつ	平安	茂原信生他	2015	歴史館 ※
	保存は悪い、4 基の土壙で、4 体(成人3、少年1)が出土。一部のみが取り上げ可能、歯は比較的残っている(SM4011 は 26 本)、シャベル型切歯をもつ。扁平大腿骨。					

150	榛名平遺跡	はるなひら	古墳・中世・江戸	平田和明他	2001b	佐久市
	保存は悪い、66 体(古墳 1: 中世 55、江戸 1、不明9)、焼骨を含む、中世: 成人 23、小児 15、不明 17。					
151	東久保遺跡	ひがしくぼ	中世	植木真吾他	2004	佐久市
	保存は良くない。OT1: 細片の頭蓋骨片、壮年以上(竹内修二鑑定)、OT2: 骨かどうか不明。					
152	聖原遺跡	ひじりはた	中世	ハリノ・サーヘイ	2005	佐久市
	保存は悪い、1 体分、成人。					
153	深堀遺跡	ふかぼり	平安～中世～近世	多賀谷 昭	2002	佐久市
	5 体(2 例平安以前、2例平安以降、1例江戸以降)、幼児2例、江戸以降の男性のものは保存が良い(椎体圧迫骨折、一部歯槽吸収あり)。					
154	藤塚 7 号墳、8 号墳	ふじづか	古墳(7c 末)	森本岩太郎	1994	佐久市
	保存は悪い、7 号墳は 2 体、8 号墳は 3 体、ほかにイヌ 1 体。					
	藤塚古墳第 2 号特殊遺構、8 号墳主体部礫床下	ふじづか	古墳、平安	宮崎重雄	1994	
	保存は悪い、2 号特殊遺構(平安)は断片的、8 号主体部礫床下には歯 2 本。					
155	蛇塚古墳群	へびづか	古墳、中世	平田和明他	2000	佐久市
	保存は悪い、6 体(中世 2、古墳 4)、保存処理あり、中世のものは焼骨。					
156	前田遺跡	まえだ	室町	森本岩太郎	1989b	佐久市
	6 体(3 体が土葬、3 体が火葬)、女性が 5 体、切歯に異常摩耗がある、土葬骨は保存が悪い。					
	前田遺跡	まえだ	室町	森本岩太郎	1989a	
	【要旨】苧績み作業(木綿の糸紡ぎ)による特殊磨耗がある。					
157	前藤部遺跡	まえとうべ	中世末	宮崎重雄	1999	佐久市
	4～5 歳の乳児 1 体、乳歯に大きな齧蝕がある。					
	前藤部遺跡	まえとうべ	中世	平田和明他	1999c	
	5 体の成人(男性3、女性 1、不明 1)、一部に焼骨片。					
158	宮添遺跡	みやぞえ	古墳～平安	多賀谷 昭	2001	佐久市
	保存は悪い、1 体、屈葬、30 歳代女性。					
159	森平遺跡	もりだいら	中世か	梶ヶ山真理他(ハレオラホ)	2009	佐久市
	全体的に保存は悪い。D5 土坑の 1 体分、四肢骨は断片的に残る、頭は北、屈葬、男性の可能性が高い、成人。					
160	矢嶋城跡	やじまじょう	江戸	西沢寿晃	1985c	佐久市
	保存は悪い、空堀から出土、2体、一部の四肢骨のみ、年齢性別不明。					
161	寄山古墳	よりやま	古墳	森本岩太郎	1995	佐久市
	玄室に歯(3 体分、幼児を含む)が残る。羨道には最少個体 4 の成人骨、咬耗が進んでいる。全て壮年。					

南牧村

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
162	志なの入り遺跡	しなのいり	縄文前期か	鈴木 誠他	1975	
	保存は良い、2 体、頑丈な下顎骨、磨耗顕著、抜歯はない、2号の保存は悪い、1 号熟年女性。					

163	栃原岩陰遺跡	とちばらいわかげ	縄文早期	鈴木誠	1966a	国立科学博物館
				鈴木誠	1968	
	【要旨】発掘調査と人骨の概要。					
	栃原岩陰遺跡	とちばらいわかげ	縄文早期	香原志勢他	1971	
	【要旨】栃原人骨の死因を分析している。					
	栃原岩陰遺跡	とちばらいわかげ	縄文早期	西沢寿晃	1978	
	【要旨】栃原人骨の概要。					
	栃原岩陰遺跡	とちばらいわかげ	縄文早期	米田 穰他	2002	
	【要旨】栃原人の食性、年代測定。					
	栃原岩陰遺跡	とちばらいわかげ	縄文早期	香原志勢他	2011	
保存は良い、12 体(男性 4 女性 4、幼児 4)、きゃしゃな早期人、下肢に比べ上肢がきゃしゃ、特殊な磨耗あり。						

佐久穂町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
164	小山寺窪遺跡	こやまてらくぼ	中世	島田恵子 (木次英五 鑑定)	2002	佐久穂町
	T1 号特殊墓:保存の悪い人骨で 50 歳以上の老人が 2 体と小児骨が出土。東端部墓群:火葬骨が出土、合計 3.3kg ほど、骨の色は多様。12 歳未満の幼児も混在。東側から西端にかけての大墓群:東寄りに土葬墓 6 基(1 体は不明だが、それ以外はすべて 50 歳以上の老人、保存状態は不明)、西にかけて火葬骨がある、炭化物と混在する、40～50 体と思われる。土葬墓は 1 か所で上下顎骨が植立して出土、四肢は細片化(50 歳以上)。					

御代田町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
165	下原古墳	しもはら	古墳	西沢寿晃	1975	御代田町
	保存は悪い、3 体以上(小児含む)、一部の四肢骨と歯 15 本。					
166	滝沢遺跡	たきざわ	縄文 中期後葉～ 晩期前葉	茂原信生	1997d	御代田町
	伏臥屈葬、下顎に鋭い刃物による5回ほどの切痕がある、壮年男性、縄文時代ではない可能性もある。					

立科町

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
167	大庭遺跡	おおにわ	縄文	佐藤 敏	1990	立科町
	焼骨片、細片。					

表の凡例

保管 歴史館：長野県立歴史館、※：県立歴史館で保管するが、その後、当該市町村へ移管予定のもの。県埋文：長野県埋蔵文化財センター、東大総博：東京大学総合研究博物館

【要旨】とあるものは、茂原のコメント。それ以外は、主に茂原が執筆し、部分的に川崎が補足しました。

6 まとめ

今回の調査で、今のところ長野県内の 167 遺跡から人骨が出土していることが明らかになりました。長野県内の人骨は、火山灰の影響などで保存状態の悪いものが多いのは残念ですが、県内の各地域からいろいろな時代にわたって数多くの人骨が出土していることがわかりました。信州大学におられた鈴木誠先生などの研究や教育によって、多くの方々に人骨資料の重要性が理解されるようになり、また、オリンピックなどに関連した道路工事などで出土することも多く、工事関係会社の理解が得られるようになったことも相まって、長野県の人骨の研究報告は多数が出版されています。奈良文化財研究所のホームページで閲覧できる全国遺跡総覧の報告書では長野県が一番多く掲載されています。今回の著者の一人である茂原も北村遺跡をはじめとして長野県内の多くの人骨の研究に携わっています。

今後、北村遺跡がそうであったように、まだまだ知られていない古代人骨が出土することも期待されます。また、遺伝子の研究や安定同位体の研究などのような思いもかけない研究方法が開発されて、形態学的な事実だけでなく別の視点から人骨の再調査を進める必要が出てくることもあるでしょう。

その際に、今までわかっていたことや人骨が残っている遺跡はどのようなものかの情報は重要であり、今回のこの出土人骨リストは、将来の研究をいっそう発展させるのに役に立つであろうと考えています。私たちは、今回発表したものが完成形だとは思っていません。まだまだ出発点にすぎません。我々の力不足で、このリストに掲載されていない人骨資料もまだまだあると思います。また、今も長野県内の遺跡の発掘が行われ、新たな資料が蓄積しています。皆様のご協力を得ながら、長野県の人骨資料のリストをよりいっそう充実したものにしていきたいと考えています。このリストに記載されていない人骨資料についての情報をお持ちでしたらぜひご教示ください。

なお、このリストをつくるにあたって、それぞれの遺跡の各人骨についての形質人類学的な記述のまとめを網羅した元となる詳細リストを作りました。そちらも近いうちに何らかの形で公にしたいと思います。ご希望の方にはPDFとしてお分けしたいと思います。茂原(shige868@keb.biglobe.ne.jp)あるいは川崎(kamo-sikamiti@nifty.com)までご連絡ください。(茂原)

謝辞

このリストを作成するにあたっての文献や資料収集では藤森英二氏、中村由克氏、長谷川桂子氏、小松学氏、有坂恭祐氏をはじめ県内市町村、県埋蔵文化財センター等にご協力いただき、報告書や人骨にかかる情報をご提供いただき、さらに、奈良文化財研究所のデータベース「全国遺跡報告総覧」を多く利用させていただきました。記して感謝いたします。また、人骨の出土リストを印刷することを可能にして下さった長野県考古学会に心からのお礼を申し上げます。

(追記)

脱稿後、以下の類例があることを知りましたので、補足しておきます(「2 長野県内人骨出土遺跡の概要」には成果は反映していません)。

長野市

No	遺跡名	よみ	年代	報告者	年	保管
	松代城下町跡	まつしろじょうかまち	近世	小沢素子他	2005	長野市
	幼児一体、第1号遺構、2～3歳・性不明、頭蓋、体幹、体肢骨共に大部分の骨が残る、保存状態もよい、頭蓋の縫合は未癒合、頭蓋は復元された、泉門は閉じている、外後頭隆起や乳様突起は発達していない、乳歯列で歯の咬耗はほとんどない、四肢骨は大部分が残るが風化が進んでいる、骨端は未癒合である、推定身長は男性なら79 cm前後、顔面は小さくきゃしゃ、高眼窩、狭顔など貴族的な特徴を持つ、家老級の屋敷から出土している					

註

- 1 一覧は遺跡群をひと括りにしているが、これを遺跡別または地点別に分けるとさらに遺跡数は増える。
- 2 No.26の松原遺跡のように、一遺跡から縄文を除く各時代の遺構がある場合は時代区分ごとカウントしたため、その合計は人骨出土遺跡数より多くなる。なお、縄文時代は時間幅が長いので、大別時期ごとにカウントした。
- 3 今回は鑑定を受けた人骨が出土した遺跡のみ取り上げている。したがって長野県の葬墓制全体を概観するわけではない。また、葬墓制に関する先学の優れた論考はひとまず置いて、なるべく報告書の事実記載をもとにした。
- 4 ふつう下肢の形から屈葬あるいは伸展葬などと呼称するが、葬られたか遺棄したか区別できない場合があるため、屈位あるいは伸展位と表現を統一した。
- 5 土坑内に遺体(骨)の収納容器がない場合は土坑墓、容器がある場合はそれぞれ木棺(墓)、石棺(墓)、土器棺(墓)あるいは蔵骨器とした。
- 6 遺体をそのまま埋めた場合は再葬と区別して直葬とした。
- 7 垂飾りや耳飾りなどの装身具を別にして、縄文時代後期までは人骨が出土した墓に供伴する遺物は意外に少ない。
- 8 土坑内で板を棺形に組み合わせた木棺は、磔を棺形に組合せた組石棺墓と同じで、後の時代のクギ等で板を留めた箱式木棺と異なるため「組木棺墓」とするべきと思うが、ここでは報告書の表現を踏襲している。
- 9 七瀬3号は割竹形木棺を設置していたようだが、溝口の塚は箱式木棺の可能性も検討している。
- 10 屋代新幹線地点のSK6267は幼児の再葬墓だという。
- 11 土坑内に据えた組合式の木棺上に漆塗りの椀と箸状の木製品、布にくるまれた鏡を納めた乾湿の方形小箱を置き、土坑東西の壁沿いから緑釉陶器や灰釉陶器、土師器の椀や杯、皿などの焼物類が列状に出土している。
- 12 なかには葬ったものではない焼骨もあろうが、中世は焼骨再葬が一般化するため火葬(墓)とした。
- 13 近世遺跡は限定的に保護対象としているため、中世以前の遺跡の上層や近隣で遺構が検出されない限り記録保存されてない。

出典一覧

- 青木和明・寺島孝典 1992 「各節 弥生時代Ⅴ期・古墳時代」『篠ノ井遺跡群（4）聖川堤防地点』、長野市埋蔵文化財センター、pp.67-92
- 阿部修二・茂原信生 1994 「鶴萩七尋岩陰遺跡出土の人骨および動物骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 13－更埴市内・長野市内その 1－』（鶴萩七尋岩陰遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.274-285.
- 飯塚政美（人骨：西沢寿見教示） 1987 「8号墳丘」『殿島団地造成事業殿島城跡・宮場間様十三塚遺跡緊急発掘調査報告』（宮場間様十三塚遺跡）、伊那市教育委員会内殿島城跡遺跡発掘調査団、pp.1-17、図版 8-9
- 石川日出志 2002 「弥生時代再葬墓の祖型を考えるために―長野県保地遺跡の縄文再葬墓」『第 2 回関東弥生研究会資料』、関東弥生研究会、pp.23-32
- 市村勝巳（人骨：西沢寿見教示） 1990 「古代、中世の遺構（墓址）」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 7－松本市内その 4－』（南栗遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.157-160、pp.180-182
- 岩崎卓也 1988a 「古墳時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.884-962
- 岩崎卓也 1988b 「城の内遺跡・灰塚遺跡・生仁遺跡・馬口遺跡」『長野県史考古資料編第 2 冊（主要遺跡 北・東信）』、長野県史刊行会、pp.429-449
- 植木真吾・千葉博俊・金井慎司 2004 「集石墓（OT1）、東久保北古墳（OT2）出土人骨について」『後家山遺跡・東久保遺跡・宮田遺跡Ⅰ・Ⅲ』、佐久市教育委員会、pp.381-382
- 上田典男（人骨：西沢寿見教示） 1989a 「中世の遺構（墓址）」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 10－松本市内その 7－』（北中遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp. 14-22
- 上田典男（人骨：西沢寿見教示） 1989b 「中世の遺構（墓址）」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 10－松本市内その 7－』（北方遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.62-73
- 上田 真（骨：茂原信生、本郷一美、櫻井秀雄鑑定） 2014 「出土骨に関する分析」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3－佐久市内 3－』（周防畑遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.275-278
- 白居直之（人歯：茂原信生鑑定） 1999 「（土坑）SK59」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 11－長野市内その 9－』（春山・春山 B 遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.194
- 大沢 哲 1991 「弥生時代の遺構と遺物 墓壙」『ほうろく屋敷遺跡』、pp.124-159
- 大附勝敏 1950 「長野県海善寺古墳出土人骨の歯牙」『人類学輯報』4、広島医科大学解剖学教室、9-14
- 小沢素子・梶ヶ山真里・馬場悠男 2005 「松代城下町出土の人骨について」『松代城下町跡－中木町・西木町・紺屋町』、長野市教育委員会、pp.246-249
- 小野紀男 1998 「土坑」『湯ノ崎遺跡・一本松古墳、稲荷山公園建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.19-22
- 梶ヶ山真理・孔 智賢（株パレオラボ） 2009 「森平遺跡出土の人骨鑑定」『森平遺跡 北近津遺跡Ⅱ 西一里塚遺跡Ⅲ 大豆田遺跡Ⅲ』、佐久市教育委員会、pp.81-82
- 春日和彦 1995 「日向林 B 遺跡出土人骨について」『貫ノ木遺跡・日向林 B 遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書－旧石器時代、縄文時代早期・前期の遺跡』、信濃町教育委員会、pp.61-63、図版 12
- 金井正三 1978 「まとめ」『行人塚古墳』、須坂市教育委員会、pp.8-9、図版 2
- 金子浩昌 1994 「竹花遺跡・大塚原遺跡出土動物遺体の種類」『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原遺跡緊急発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.609-612
- 金子浩昌 2000 「出土人骨に対する観察」『鳥羽山洞窟の調査－古墳時代葬所の素描と研究』、関孝一・永峯光一編、信毎書籍出版センター、pp.53-55
- 神沢昌二郎 1983 「針塚遺跡」『長野県史考古資料編主要遺跡（中信）』、pp.184-189
- 神原庄一郎 1953 「長丘村山の神古墳出土の歯牙に就いて」『下高井』、長野県教育委員会、pp.57-59
- 川崎 保（人骨：茂原信生所見） 1999a 「SK177 出土人骨 B-7、B-8」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 20－東部町内－』（真行寺遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.149
- 川崎 保（人骨：茂原信生所見） 1999b 「SK198 出土人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 20－東部町内－』（桜畑遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.225

- 桐原 健 1988 「奈良・平安時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.963-1004
- 金原 正（人骨：西沢寿晃鑑定） 1989 「墓」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 3 - 塩尻市内その 2 -』（吉田川西遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.89-91
- 香原志勢・中村登流・西沢寿 1967 「土葬・火葬墓出土人骨」『安源寺 中野市安源寺遺跡緊急発掘調査報告』、中野市教育委員会、pp.97-98
- 香原志勢・茂原信生・西沢寿晃・藤田敬・大谷江里・馬場悠男 2011 「栃原岩陰遺跡（長野県南佐久郡北相木村）出土の縄文時代早期人骨－縄文時代早期人骨の再検討－」『人類学雑誌』119-2、日本人類学会、pp.91-124
- 香原志勢・中村登流他 1971 「災害死と推定される早期縄文時代小児人骨－長野県南佐久郡北相木村栃原遺跡」『人類学雑誌』79、日本人類学会、pp.55-60
- 小林幹男 1973 「人骨」『他田塚古墳発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.24-25
- 小原晃一 1980 「人骨」『日向坂・赤須城・七免川 A・七免川 B 遺跡、県営ほ場整備事業大田切（3）地区埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（昭和 54 年度分）』、駒ヶ根市教育委員会、pp.84-88
- 櫻井秀雄（骨：茂原信生鑑定） 2012 「（木棺墓 SM07）出土歯の鑑定報告」『西一里塚遺跡群』、長野県埋蔵文化財センター、pp.90-92
- 佐藤 敏 1990 「大庭遺跡出土の骨片について」『大庭遺跡』、大庭遺跡発掘調査団・立科町教育委員会、pp.193-195、図版
- 佐藤信之 1995 「中世以降（墓）」『大境遺跡 VI オリオン機械（株）倉庫建設に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.27-29
- 塩入秀敏 1976 「人骨」『塚穴原第 1 号古墳発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.39-40、図版 7
- 茂原信生 1993a 「人骨の形質」『北村遺跡』、長野県埋蔵文化財センター、pp.259-402
- 茂原信生 1993b 「野口遺跡出土の骨片」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 12 - 東筑摩郡坂北村・麻績村内 -』（野口遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.230
- 茂原信生 1993c 「向六工遺跡出土の中世火葬骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 12 - 東筑摩郡坂北村・麻績村内 -』（向六工遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.226-227
- 茂原信生 1994 「Human skeletal Remains of the middle to late Jomon Period from inland Kitamura Site, Nagano Prefecture.」『Anthropological Science』102-4、The Anthropological Society of Nippon（日本人類学会）、pp.321-344
- 茂原信生 1997a 「石川条里遺跡水田域（弥生時代後期～近世）出土の人骨と獣骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 15 - 長野市内その 3 -』（石川条里遺跡）第 1 分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.676-682
- 茂原信生 1997b 「石川条里（微高地）遺跡（長野市）出土の古墳時代ならびに中世の人骨と獣骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 15 - 長野市内その 3 -』（石川条里遺跡）第 2 分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.402-417
- 茂原信生 1997c 「大穴遺跡（長野県）出土の人骨と獣骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 22 - 更埴市内その 1 -』（大穴遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.264-269
- 茂原信生 1997d 「滝沢遺跡（長野県御代田町）出土の人骨」『長野県北佐久郡御代田町滝沢遺跡発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、pp.228-238
- 茂原信生 1998a 「浅川扇状地遺跡群・三才遺跡出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 長野市内その 2 -』（浅川扇状地遺跡群・三才遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.246-254
- 茂原信生 1998b 「篠ノ井遺跡群出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 4 - 長野市内その 1 -』（篠ノ井遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.489-502
- 茂原信生 1998c 「上信越自動車道屋代遺跡群から出土した獣骨と人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 26 - 更埴市内その 5 - 弥生・古墳時代編』（屋代遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.229-232、Pl.35
- 茂原信生 1998d 「砂原遺跡（長野県）出土の江戸時代人骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 1 - 軽井沢町内・御代田町内・佐久市内・浅科村内 -』（砂原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.197-210

- 茂原信生 1998e 「築地遺跡出土の人骨と動物遺存体」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 4 - 長野市内その 1 -』（築地遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.503-505
- 茂原信生 1998f 「動物遺存体と人骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 3 - 更埴市内 -』（更埴条里遺跡・屋代遺跡群）、長野県埋蔵文化財センター、pp.281-288
- 茂原信生 1998g 「弥勒堂遺跡出土の人骨および獣骨」『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書 2 - 上田市内・坂城町内 -』（弥勒堂遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp. 541-544
- 茂原信生 1999a 「榎田遺跡（長野市）出土の人骨と脊椎動物遺存体」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 12 - 長野市内その 10 -』（榎田遺跡）第 2 分冊、長野県埋蔵文化財センター、pp.392-413
- 茂原信生 1999b 「観音平経塚出土の焼骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21 - 上田市内・坂城町内 -』（観音平経塚）、長野県埋蔵文化財センター、pp.447-448
- 茂原信生 1999c 「陣馬塚古墳出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21 - 上田市内・坂城町内 -』（陣馬塚古墳）、長野県埋蔵文化財センター、pp. 436-438.
- 茂原信生 1999d 「宮平遺跡出土の人骨と獣骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21 - 上田市内・坂城町内 -』（宮平遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.439-443
- 茂原信生 1999e 「村東山手遺跡出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 8 - 長野市内その 6 -』（村東山手遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.246-251
- 茂原信生 1999f 「山崎北遺跡出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 21 - 上田市内・坂城町内 -』（山崎北遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.444-446
- 茂原信生 2000a 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡から出土した古代 2 および中世の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 27 - 更埴市内その 6 - 古代 2・中世・近世編』（更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.220-238
- 茂原信生 2000b 「更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡出土の人骨の時代的な変化（縄文時代から中世まで）」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 28 - 更埴市内その 7 - 総論編』（更埴条里遺跡・屋代遺跡群・窪河原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.254-256
- 茂原信生 2000c 「郷土遺跡出土の人骨（古墳時代）と脊椎動物遺存体（縄文時代）」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 19 - 小諸市内その 3 -』本文編（郷土遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.415-419
- 茂原信生 2000d 「第 2 節 人骨及び骨角牙製の遺物 1. 人骨の鑑定」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 長野市内その 3 - 弥生中期・石器 本文編』（松原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.339-353
- 茂原信生 2000e 「松原遺跡出土の人骨・脊椎動物遺存体第 1 節 人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 6 - 長野市内その 4 - 古代・中世本文編』（松原遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.375-400
- 茂原信生 2002 「保地遺跡（長野県坂城町）から出土した縄文時代人骨」『金井東遺跡群－保地遺跡Ⅱ』、坂城町教育委員会、pp.67-89
- 茂原信生 2004 「須坂市井上・幸高遺跡群、井上氏居館址南堀跡から出土した人骨と獣骨」『井上・幸高遺跡群、井上氏居館址南堀跡』、須坂市教育委員会、pp.35-42
- 茂原信生 2008 「渡来人の出現－善光寺平の弥生時代人－」『「赤い土器のクニ」の考古学』、川崎保編、雄山閣、pp.221-228
- 茂原信生 2011a 「上五明条里水田址出土の人骨について」『主要地方道長野上田線力石バイパス建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 2 - 坂城町内 -』（上五明条里水田址）、長野県埋蔵文化財センター、pp.181-184
- 茂原信生 2011b 「渡来人の出現－善光寺平の弥生時代人－」『長野県考古学会誌』138・139、長野県考古学会、pp.9-14（再録）
- 茂原信生 2012 「下村遺跡（鶯ヶ城跡）出土人骨」『国道 474 号（飯橋道路）埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 飯田市内その 5 -』（下村遺跡（鶯ヶ城跡））、長野県埋蔵文化財センター、pp.129-132
- 茂原信生 2016a 「神之峯城跡 SK01 出土の人骨について」『一般国道 474 号飯橋道路埋蔵文化財発掘調査報告書 6 - 飯田市内その 6 -』（神之峯城跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.289-291
- 茂原信生 2016b 「信州人の一万年－骨から歴史をみる－」『長野県埋蔵文化財センター年報 2015』32、長野

県埋蔵文化財センター、pp.32-34

茂原信生 2017 「北村縄文人はどのような人々だったのか」『安曇野市豊科郷土博物館紀要』4、安曇野市豊科郷土博物館、pp.2-18

茂原信生・姉崎智子 2007 「長野県飯田市の石子原遺跡から出土した人骨と馬骨」『中央自動車道西宮線飯田南ジャンクション埋蔵文化財発掘調査報告書』(石子原遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.193-197

茂原信生・姉崎智子 2012 「峯謡坂遺跡(千曲市)出土人骨」『一般国道18号(坂城更埴バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書3-千曲市内その3-』(峯謡坂遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.56-58

茂原信生・阿部修二・芹澤雅夫 1994 「SK162出土人骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書14-長野市内その2-』(鶴前遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.140-141, pl.35

茂原信生・芹澤雅夫 1994 「小坂西遺跡出土の中世火葬骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書13-更埴市内・長野市内その1-』(小坂西遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.269-271

茂原信生・芹澤雅夫・江藤盛治 1992 「大室古墳群(長野市)出土の人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書3-長野市内その1-』(大室古墳群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.158-165, 図版71-72

茂原信生・長岡朋人 2003 「倉科將軍塚古墳(長野県更埴市)出土の人骨」『更埴市内前方後円墳範囲確認調査報告書有明山將軍塚古墳・倉科將軍塚古墳』、更埴市教育委員会、pp.133-134

茂原信生・長岡朋人・宮本俊彦 2003 「山の神遺跡出土の江戸時代人骨」『国営アルプスあづみの公園埋蔵文化財発掘調査報告書2-大町市内その1-』(山の神遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.247-251

茂原信生・西澤寿晃・松村博文 1997 「伊勢宮遺跡出土の弥生時代人骨」『長野市立博物館紀要』4、長野市立博物館、pp.1-26

茂原信生・本郷一美・櫻井秀雄 2015 「西近津遺跡群出土の人骨について」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2-佐久市内2-』(西近津遺跡群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.236-238

茂原信生・松島和巳 1996 「中村中平遺跡(飯田市)出土の縄文時代火葬骨」『飯田市美術博物館研究紀要』6、pp.137-151

茂原信生・松村博文 1997 「篠ノ井遺跡群(長野市)出土の人骨(弥生時代～平安時代)」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書16-長野市内その4-成果と課題編』(篠ノ井遺跡群)、長野県埋蔵文化財センター、pp.218-245

信濃毎日新聞 2012 「極楽往生願って納めた？」2012年11月2日

島田恵子(歯:木次英五鑑定) 2002 「中世墓群」『小山寺窪遺跡』、佐久町教育委員会、pp.40-61

鈴木 誠 1957 「長野県大川発見の甕被葬の一例」『人類学雑誌』66、日本人類学会、pp.92-93

鈴木 誠 1966a 「長野県北相木村栃原岩陰遺跡出土人骨の概容」『信州ローム』9、信州ローム研究会、p.12-13

鈴木 誠 1966b 「六万部古墳出土の人骨」『片桐村誌』、(中川村)中川西公民館、p.157

鈴木 誠 1968 「長野県北相木村栃原岩陰遺跡と人骨」『人類学雑誌』、76-1、日本人類学会、pp.52-54

鈴木 誠・高橋 稔 1975 「Anthropological studies on the mandible of the recent Chubu Japanese.」『人類学雑誌』83-4、日本人類学会、pp.320-329

鈴木 誠・西沢寿晃 1975 「人骨」『志なの入遺跡発掘調査報告』、南牧村、pp.25-31

鈴木 誠・西沢寿晃 1970 「第2次・3次発掘調査出土の自然遺物」『信越本線滋野・大屋間複線化工事事業地内埋蔵文化財緊急発掘調査報告書』、長野県考古学会、pp.153-154

関 賢次(人骨:西沢寿晃鑑定) 1987 「奈良、平安時代の遺構と遺物、①1号石組墓」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1-岡谷市内-』(膳棚B(白山)遺跡)、長野県埋蔵文化財センター、pp.213-217

高橋 桂(29号土壙は太田文雄) 1978 「29号土壙」『牟礼村丸山遺跡発掘調査報告書』、牟礼村教育委員会、pp.19-21

多賀谷 昭 2001 「宮添遺跡から出土した人骨について」『宮添遺跡』、佐久市教育委員会、p.31、図版1

多賀谷 昭 2002 「長野県佐久市深堀遺跡から出土した近世およびそれ以前の古人骨について」『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ』、佐久市教育委員会、pp.223-229

- 竹内 恒（人骨：香原志勢教示） 1969 「人骨の特殊な状態を示す長野県佐久市蟻畑遺跡」『信濃』21 - 4、信濃史学会、pp.99-102
- 竹内靖長 2002 「発見された遺構 中世の遺構」『川西開田遺跡Ⅲ・Ⅳ』、松本市教育委員会、pp.24-25
- 田中和彦 1998 「小諸市与良城遺跡出土人骨について」『与良城跡－長野県小諸市与良城跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.34-38
- 田中和彦 2003 「長野県七五三掛遺跡出土の縄文時代人骨」『人類学雑誌』111 - 1、日本人類学会、pp.69-85
- 谷畑美帆 2009 「半過古墳群出土人骨について」『中の沢遺跡・半過古墳群－一般国道18号（上田坂城バイパス）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.103-106、図版36
- 鶴田典昭（骨：茂原信生鑑定） 2001 「川田条里遺跡出土の獣骨・人骨」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書10－長野市内その8－第3分冊（自然科学・総論編）』（川田条里遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.220-221
- 寺島孝典 1995 「墓跡」『浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡Ⅱ、市営住宅上松東団地2号棟建設事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』、長野市教育委員会、pp.19-30
- 友野良一・松下節子 1986 「天伯古墳出土人骨」『天伯古墳－長野県上伊那郡中川村片桐天伯』、中川村教育委員会、pp.27-28
- 直井雅尚 2004 「出土遺物 その他の遺物」『中山古墳群・楯形原遺跡・鞍形原砦址 中山霊園拡張に伴う第Ⅴ～Ⅸ次発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.65
- 長岡朋人・茂原信生 2001 「溝口の塚古墳（長野県飯田市）から出土した人骨」『溝口の塚古墳－一般国道153号飯田バイパス（3工区）建設に先立つ埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書』、飯田市教育委員会、pp.116-126
- 長野県埋蔵文化財センター 2009 「地家遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報26』、pp.13-15
- 永峯光一 1982 「鳥羽山洞穴遺跡（国史跡）」『長野県史考古学資料編主要遺跡（北・東信）』、長野県史刊行会、pp.748-761
- 永峯光一 1988a 「縄文時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.788-800
- 永峯光一 1988b 「弥生時代の信仰と葬制」『長野県史考古資料編遺構・遺物』、長野県史刊行会、pp.858-860
- 中村徹也（鑑定池田次郎） 1970 「436号墳出土の骨について」『長野県立農事試験場等用地内古墳調査、大室古墳群北谷支群緊急発掘調査報告書』、長野県・大室古墳群調査会、p.83
- 西 香子 2013 「浅川扇状地遺跡群」『長野県埋蔵文化財センター年報2012』29、長野県埋蔵文化財センター、p.7
- 西沢寿晃 1975 「下原古墳出土人骨について」『馬瀬口下原古墳群 御代田町馬瀬口下原古墳群学術発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、p.12
- 西沢寿晃 1976 「カロウトイシ古墳出土人骨について」『唐櫃石古墳・姥ヶ懐古墳』、岡谷市教育委員会、pp.54-55
- 西沢寿晃 1978 「栃原岩陰遺跡出土人骨－その埋葬と形質について－」『中部高地の考古学』、長野県考古学会、pp.94-104
- 西沢寿晃 1979a 「深町遺跡出土骨類について」『深町－長野県小県郡丸子町深町遺跡緊急発掘調査概報』、丸子町教育委員会、pp.121-126
- 西沢寿晃 1979b 「安塚古墳群出土人骨所見」『松本市新村安塚古墳群－緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.66-68
- 西沢寿晃 1980 「出土人骨について」『四ツ屋遺跡（第1～3次）・徳間遺跡・塩崎遺跡群（第3次）』、長野市教育委員会、pp.38-39
- 西沢寿晃 1981a 「雨堀遺跡出土の骨類について」『松本市内田雨堀遺跡』、松本市教育委員会、pp.118-119
- 西沢寿晃 1981b 「人骨」『松本市笹賀神戸遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.55
- 西沢寿晃 1982a 「人骨」『松本市笹賀くまのかわ遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.47
- 西沢寿晃 1982b 「中部高地諸遺跡出土の抜歯人骨」『中部高地の考古学』Ⅱ、長野県考古学会、pp.33-46
- 西沢寿晃 1982c 「長野県茅野市御社宮司遺跡土壌F7号出土人骨所見」『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘

調査報告書－茅野市その5－』（御社宮司遺跡）、長野県教育委員会、p.213

- 西沢寿晃 1983a 「出土人骨について」『松本市新村秋葉原遺跡緊急発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.132-136
- 西沢寿晃 1983b 「真光寺第1号古墳出土人骨」『真光寺第1号古墳』、望月町教育委員会、pp. 21-28
- 西沢寿晃 1983c 「森将軍塚古墳出土の人骨」『森将軍塚古墳－保存整備事業第3年次発掘調査概報－』、更埴市教育委員会、p.24
- 西沢寿晃 1985a 「久保在家遺跡出土の歯について」『不動坂遺跡群・古屋敷遺跡群・上の原遺跡群』、東部町教育委員会、pp.28-29
- 西沢寿晃 1985b 「人骨」『不動坂遺跡群・古屋敷遺跡群・上の原遺跡群』（狐山古墳）、東部町教育委員会、p.112
- 西沢寿晃 1985c 「出土人骨」『矢嶋城跡－緊急発掘調査報告書』、浅科村教育委員会、pp.19-20
- 西沢寿晃 1985d 「平出2号墳出土人骨について」『平出遺跡考古博物館・歴史民俗資料館紀要』2、塩尻市立博物館、p.23
- 西沢寿晃 1986a 「人骨」『不動坂遺跡群Ⅱ・古屋敷遺跡群Ⅱ』、東部町教育委員会、pp.72-73
- 西沢寿晃 1986b 「2号墳出土人骨」『森将軍塚古墳－保存整備事業第6年次発掘調査概報－』、更埴市教育委員会、pp. 36-37
- 西沢寿晃 1986c 「彌ノ神古墳出土人骨について」『彌ノ神・栗木沢・砂田 塩尻東地区県営圃場整備発掘調査報告書』、塩尻市教育委員会、pp.29-32
- 西沢寿晃 1986 d 「梨久保遺跡出土の骨類について」『梨久保遺跡－中部山岳地の縄文時代集落址－梨久保遺跡第5次・第11次発掘調査報告書（本編）』、岡谷市教育委員会、pp. 553-555
- 西沢寿晃 1987 「2号墳墓出土人骨」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書1－岡谷市内－』（大久保B遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.46-47
- 西沢寿晃 1988a 「大明神遺跡出土の骨類について」『大明神遺跡』、大桑村教育委員会、pp.110-113、図版 8-9
- 西沢寿晃 1988b 「豊原古墳出土人骨について」『豊原古墳緊急発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.15-20、図版 7
- 西沢寿晃 1988c 「宮崎遺跡出土人骨および動物骨について」『宮崎遺跡－長原地区団体営土地改良総合整備事業に伴う発掘調査報告書』、長野市埋蔵文化財センター、pp. 94-98
- 西沢寿晃 1988d 「人骨及び歯についての所見」『源波古墳発掘調査報告書』、箕輪町教育委員会、pp. 52-54
- 西沢寿晃 1989a 「土壙 353 出土の人骨について」『松本市向畑遺跡Ⅱ』、松本市教育委員会、pp. 155-156
- 西沢寿晃 1989b 「七瀬3号古墳出土の人骨について」『七瀬古墳群田麦中畝古墳群』、中野市教育委員会、pp. 114-116
- 西沢寿晃 1989c 「五輪堂遺跡出土の人骨」『五輪堂遺跡－塩尻東地区県営圃場整備事業埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』、塩尻市教育委員会、pp. 100-103
- 西沢寿晃 1990a 「出川遺跡出土の人骨について」『松本市出川遺跡』、松本市教育委員会、pp.20-21
- 西沢寿晃 1990b 「円光房遺跡出土の人骨類について」『円光房遺跡：長野県埴科郡戸倉町更級地区県営ほ場整備事業に伴う幅田遺跡群円光房遺跡緊急発掘調査報告書』、戸倉町教育委員会、pp.185-188
- 西沢寿晃 1990c 「棚畑遺跡出土の人骨」『棚畑－ハヶ岳西山麓における縄文時代中期の集落遺跡』、茅野市教育委員会、p.699
- 西沢寿晃 1990d 「殿村遺跡出土の人骨について」『殿村・東照寺址遺跡発掘調査報告書』、下諏訪町教育委員会、pp.159-161
- 西沢寿晃 1990e 「伊勢原第2号古墳出土の人骨」『伊勢原遺跡 伊勢原第2号古墳・薬師遺跡緊急発掘調査報告書』、東部町教育委員会、pp. 32-33
- 西沢寿晃 1991 「関口A遺跡第3号土坑出土人骨について」『柏原遺跡群関口A・関口B・下柏原（第二次）長野県小諸市関口A・関口B・下柏原遺跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.255-257
- 西沢寿晃 1992a 「下郷第2号墳出土人骨について」『神林遺跡・下郷古墳群－平成2年度県営ほ場整備事業殿城地区施工に伴う神林遺跡他発掘調査概要報告書』、上田市教育委員会、pp.173-174

- 西沢寿晃 1992b 「出土人骨の所見」『長野県須坂市本郷大塚古墳』、須坂市教育委員会・須坂市本郷大塚古墳発掘調査団、pp.53-55
- 西沢寿晃 1992c 「森將軍塚古墳出土の人骨について」『史跡 森將軍塚古墳－保存整備事業発掘調査報告書－』、更埴市教育委員会、pp. 439-441
- 西沢寿晃 1993a 「下金山遺跡出土の骨類について」『釜村田遺跡・下金山遺跡・塚原古墳群・刺り田遺跡』、東部町教育委員会、p.106、図版 29
- 西沢寿晃 1993b 「松原遺跡出土の人骨について」『松原遺跡Ⅲ 主要地方道中野更埴線道路改良事業にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書』、長野市埋蔵文化財センター、pp.284-292
- 西沢寿晃 1993c 「丸山古墳出土の人骨」『松本市里山辺丸山古墳』、松本市教育委員会、pp.28-29、図版 11
- 西沢寿晃 1994a 「石神遺跡出土の人骨」『石神遺跡群 石神－長野県小諸市石神遺跡発掘調査報告書』、小諸市教育委員会、pp.335-342
- 西沢寿晃 1994b 「宮の上遺跡出土の骨壺に埋納された人骨について」『宮の上墳墓宮の上遺跡発掘調査報告書』、長野県南箕輪村教育委員会、pp.12-13、図版 14
- 西沢寿晃 1994c 「獅子塚古墳より検出された歯について」『蔵替遺跡緊急発掘調査報告書』、東部町教育委員会、p p. 111
- 西沢寿晃 1995a 「辻田遺跡出土の骨類について」『長野県小県郡東部町辻田遺跡発掘調査報告書』、東部町教育委員会、pp.236-240
- 西沢寿晃 1995b 「土壙墓（SK13）『松代城跡』」、長野市教育委員会、p.17
- 西沢寿晃 1995c 「骨類について」『マツバリ遺跡』、日義村教育委員会、pp. 14-16
- 西沢寿晃 1996 「上田原遺跡出土の人骨および馬骨・馬歯」『上田原－上田原遺跡発掘調査報告書』、上田市教育委員会、pp.176-180
- 西沢寿晃 1997a 「人骨」『大塚第3号古墳－緊急発掘調査報告書』、望月町教育委員会、pp.33-36
- 西沢寿晃 1997b 「八幡裏遺跡出土の人骨および獣骨」『八幡裏遺跡Ⅱ－国立新病院（長野）の新築工事に伴う発掘調査』、上田市教育委員会、pp.102-105
- 西沢寿晃 2008 「骨」『長野県松本市中山古墳群 14・15 カニホリ東・西遺跡発掘調査報告書』、松本市教育委員会、p.137
- 西沢寿晃・小松 虔 1978 「長野県佐久市月明沢遺跡発掘資料について－人歯加工品の出土」『長野県考古学会誌』31、長野県考古学会、pp.32-37
- 西沢寿晃・高橋 稯 1993 「宮遺跡第1号墳墓址出土人骨について」『宮遺跡－中部高地の縄文晩期抜歯人骨・攻玉工房遺跡の研究』、中条村教育委員会、pp.76-79
- 西沢寿晃・宮尾嶽雄 1990 「屋地遺跡出土の人骨および獣骨」『屋地遺跡Ⅱ－国補中小河川蛭川改修事業地点－』、長野市教育委員会、pp.127-130
- 西本豊弘・姉崎智子 2000 「屋代遺跡群出土の動物遺体」『屋代遺跡群 本文編－国道403号（土口バイパス）道路改良に伴う発掘調査報告書』、更埴市教育委員会、pp.429-447
- 野村一寿（人骨：茂原信生教示） 1989 「墓址 SK11」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書5－松本市内その2－』（中二子遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.118
- 馬場保之 1994 「縄文時代晩期墓制に関する一考察－長野県南部を中心として」『中部高地の考古学』Ⅳ、長野県考古学会、pp.131-163
- 林 茂樹 1970 「信濃における縄文時代墓制の様相」『信濃』22-11、信濃史学会、pp.154-162
- 林 茂樹（人骨：鈴木誠測定・検証） 1983 「野口遺跡」『長野県史考古資料編主要遺跡（中南信）』、長野県史刊行会、pp.894-897
- 原 明芳 1995 「長野県」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』（第3分冊）、栃木県考古学会ほか編、pp.136-172
- バリノ・サーベイ株式会社 2005 「出土人骨の同定」『聖原第5分冊』、佐久市教育委員会、pp.176-180
- バリノ・サーベイ株式会社 2007a 「平林東沖遺跡の自然科学分析Ⅰ 出土人骨」『浅川扇状地遺跡群平林東沖遺跡』、長野市教育委員会、pp.93-104

- パリノ・サーベイ株式会社 2007b 「骨同定」『名篋遺跡－山形なろう原公園・霊園事業に伴う緊急発掘調査報告書』、山形村教育委員会、pp.147-155
- パリノ・サーベイ株式会社 2012 「3. 人骨」『松本市横田古屋敷遺跡 第1・2次発掘調査報告書』、松本市教育委員会、pp.66-70
- 平出一治 1995 「近世の墓墳」『上居沢尾根遺跡平成4年県営圃場整備事業恩前地区に先立つ緊急発掘調査報告書』、原村教育委員会、p.80
- 平田和明・奥 千奈美 1999a 「佐久市観音堂遺跡出土の人骨について」『岩村田遺跡群観音堂遺跡』、佐久市教育委員会、pp.196-197
- 平田和明・奥 千奈美 1999b 「佐久市五里田遺跡出土人骨について」『鳴沢遺跡群五里田遺跡』、佐久市教育委員会、p.135
- 平田和明・奥 千奈美 1999c 「佐久市前藤部遺跡出土人骨について」『栗毛坂遺跡群前藤部遺跡』、佐久市教育委員会、pp.255-258
- 平田和明・奥 千奈美 2000 「佐久市蛇塚古墳群出土人骨について」『蛇塚A遺跡群蛇塚遺跡・蛇塚古墳』、佐久市教育委員会、pp.66-68
- 平田和明・奥 千奈美 2001a 「佐久市西一本柳遺跡Ⅴの出土人骨について」『一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅴ・Ⅵ中長塚遺跡Ⅰ・Ⅱ松の木遺跡Ⅰ・Ⅱ』、佐久市教育委員会、p.45
- 平田和明・奥 千奈美 2001b 「佐久市榛名平遺跡出土人骨について」『榛名平・坪の内遺跡群榛名平遺跡中世・近世編』、佐久市教育委員会、pp.279-302
- 廣田和穂 2012 「調査の成果 弥生時代 墓跡」『千曲川替佐・柳沢築堤事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－中野市内－』（柳沢遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.91-105
- 藤澤珠織・片山一道 2003 「長野市宮崎遺跡で発見された縄文晩期の乳児埋葬人骨」『立命館大学考古学論集 家根祥多さん追悼論集、Ⅲ-1』、立命館大学考古学論集刊行会、pp.323-340
- 藤沢高広 2009 「長野県」『中世の墓と銭』、出土銭貨研究会、pp.323-336
- 文化庁文化財部記念物課 2017 「埋蔵文化財関係統計資料－平成28年度－」、p.34
- 松村博文 1998 「歯冠計測値にもとづく土着系・渡来系弥生人の判別法」『国立科博専報』30、国立科学博物館、pp.199-210
- 町田勝則 2006 「社宮司遺跡の調査 土墳墓跡（SK740）」『一般国道18号坂城更埴バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書1－千曲市内その1－』（社宮司遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.627-636
- 町田拓也・石井宏昭 1996 「幸神古墳群出土の人骨・歯牙」『幸神古墳群』、白田町教育委員会、pp.103-109
- 町田拓也・島田恵子・三沢常美・佐藤 敏 1988 「五雲西12号古墳出土人骨」『五雲西12号古墳』、白田町教育委員会、pp.38-41,49-50
- 宮崎重雄 1994 「長野県佐久市藤塚古墳群出土の人骨」『長野県佐久市大字塚原・常田藤塚古墳群・藤塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、付編2、2頁
- 宮崎重雄 1998 「中宿遺跡の骨類」『中宿遺跡、佐久市埋蔵文化財調査報告書』、医療法人三世会金沢病院・佐久市教育委員会、pp.27-28
- 宮崎重雄 1999 「D-152号土墳出土人骨について」『長野県北佐久郡御代田町前藤部遺跡発掘調査報告書』、御代田町教育委員会、pp.113-115. 図版33
- 望月 映（人骨：西沢寿晃教示）1990 「中世の遺構（墓址）」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書9－松本市内その6－』（三の宮遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、pp.181-184
- 森嶋 稔 1994 「生仁遺跡」『更埴市史第1巻古代・中世』、更埴市史編纂委員会、pp.231-243
- 森本岩太郎 1969 「人骨および獣骨について」『生仁－更埴市生仁遺跡第一次（昭和43年度）緊急発掘調査報告書』、長野県考古学会、pp.93-94
- 森本岩太郎 1986 「竹田峯遺跡出土の壺棺内人骨所見」『長野県佐久市岸野西裏・竹田峯遺跡発掘調査報告書』、佐久市埋蔵文化財センター、p.171
- 森本岩太郎 1987a 「佐久市北西ノ久保遺跡出土人骨について」『長野県佐久市北西ノ久保遺跡第2次発掘調査

報告書』、佐久市教育委員会、付編 1-8

森本岩太郎 1987b 「佐久市瀧の峯古墳群 2 号墳出土の人骨について」『長野県佐久市瀧の峯古墳群発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、1 頁、付編 1

森本岩太郎 1988 「佐久市長峯古墳群第 1 号古墳出土人骨について」『長野県佐久市長峯古墳群発掘調査報告書』、佐久市埋蔵文化財調査センター、付編 pp.1-4

森本岩太郎 1989a 「苧績み作業によると思われる飛鳥・室町時代女性切歯の磨耗」『人類学雑誌』103、日本人類学会、pp.447-465

森本岩太郎 1989b 「佐久市前田遺跡出土人骨について」『鑄師屋遺跡群前田遺跡（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次）発掘調査報告書』、前田遺跡発掘調査団・佐久市教育委員会、pp. 981-991

森本岩太郎 1991 「佐久市金井城跡出土人骨について」『金井城跡』第 2 分冊遺物・考察・写真図版編、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財センター、pp.725-735

森本岩太郎 1992 「下聖端遺跡出土人骨について」『国道 141 号線関係遺跡』（下聖端遺跡）、佐久市教育委員会・佐久市埋蔵文化財調査センター、pp.394-399

森本岩太郎 1994 「佐久市藤塚古墳群出土人骨について」『長野県佐久市大字塚原・常田藤塚古墳群・藤塚遺跡Ⅱ発掘調査報告書』、佐久市教育委員会、ノンブルなし（附編 1）5 頁

森本岩太郎 1995 「佐久市寄山古墳出土人骨について」『寄山』、佐久市教育委員会、pp.824-829

森本岩太郎 1998 「佐久市上直路遺跡出土の人骨について」『佐久市埋蔵文化財年報』6、佐久市教育委員会、pp.74-75

森本岩太郎・西沢寿晃 1986 「諏訪市仏法寺の円教房智映上人の遺骨について」『仏法紹隆寺境内遺跡発掘調査報告書』、仏法紹隆寺、pp.2-7

森本岩太郎・高橋譲 2001 「縄文早期の人骨」『長野県上高井郡高山村湯倉洞窟調査報告』、高山村教育委員会、pp.467-474

森本岩太郎・平田和明 2001 「出土人骨補遺」、『長野県上高井郡高山村湯倉洞窟調査報告』、高山村教育委員会、pp.475-478

矢口忠良 1980 「土墳墓」『篠ノ井遺跡群－大規模自転車道地点遺跡の調査報告書』、長野市教育委員会、pp.41-42、図版 19

柳澤 亮（骨：茂原信生鑑定）2014 「人骨・動物骨」『中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 5－佐久市内 5－』（今井宮の前遺跡）、長野県埋蔵文化財センター、p.216

八幡一郎 1950 「長野県小県郡和村右近塚の発掘」『信濃』2-7、信濃史学会、pp.413-418

吉田章一郎・市川健二郎 1950 「長野県小県郡和村右近塚発掘概報」『考古学雑誌』36-5、日本考古学会、pp.41-46

米田 穰・吉田邦夫・吉永 淳・森田昌敏・赤澤 威 1996 「長野県出土人骨試料における炭素・窒素安定同位体比および微量元素量に基づく古食性の復元」『第四紀研究』（The Quaternary Research）35-4、日本第四紀学会、pp.293-303

米田 穰他 2002 「Radiocarbon and stable isotope analysis on the earliest jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan.」『Radiocarbon』44-2、pp.549-557

綿田弘実・近藤尚義 2000 「東京大学総合研究博物館所蔵の長野県出土考古資料（1）」『長野県立歴史館研究紀要』6、長野県立歴史館、pp.87-89

綿田弘実 2006 「小県郡真田町陣の岩岩陰遺跡の出土遺物」『長野県立歴史館研究紀要』12、長野県立歴史館、pp.89-93

本研究の発表にあたっては（一財）長野県科学振興会の助成（平成 29 年度）を受けています。